



初期設定ガイド for Windows

An-341 / 第 21 版 / 2024 年 4 月 5 日

MOTEX

| | |
|-----------------------------------------|----|
| まえがき | 2 |
| 第 1 章 導入の流れ | 3 |
| 1-1 Windows 365 Business の日本語化..... | 5 |
| 1-2 Azure Virtual Desktop の日本語化 | 11 |
| 第 2 章 かんたんインストール..... | 15 |
| 2-1 デバイスを準備する..... | 16 |
| 2-2 インストーラーを作成する | 20 |
| 2-3 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする..... | 24 |
| 2-4 グループを設定する..... | 35 |
| 2-5 管理対象デバイスの情報を編集する..... | 41 |
| 第 3 章 カスタムインストール..... | 48 |
| 3-1 デバイスを準備する..... | 49 |
| 3-2 グループを設定する..... | 53 |
| 3-3 管理対象デバイスの情報を登録する..... | 59 |
| 3-4 インストール手順と URL を確認する | 67 |
| 3-5 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする..... | 72 |
| こんなときは | 76 |
| プロキシサーバーの設定を変更する..... | 77 |
| LANSCOPE Client を更新する | 78 |
| 機種変更などでデバイスが変更になった場合 | 79 |
| トラブルシューティング..... | 80 |

まえがき

本書は、Windows 向けの初期設定方法について説明します。

製品マニュアルラインナップ

各種マニュアルラインナップは、次のとおりです。

| マニュアルの種類 | 説明 |
|------------------------|----------------------------|
| 初期設定ガイド for iOS/iPadOS | iOS/iPadOS 向けの初期設定手順 |
| 初期設定ガイド for Android | Android 向けの初期設定手順 |
| 初期設定ガイド for Windows | Windows 向けの初期設定手順 |
| 初期設定ガイド for macOS | macOS 向けの初期設定手順 |
| 利用ガイド | 管理コンソールの操作手順 |
| アンインストールガイド | LANSCOPE クライアントのアンインストール手順 |

お問い合わせ先

操作方法／トラブル／販売／お取扱いなど

メールまたは電話でお問い合わせください。

https://tryweb2.motex.co.jp/contact/cloud_support.html

商標・著作権

- 本書で使用される各社の社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本書に含まれる文章や画像などの著作権は、一部を除き、エムオーテックス株式会社が所有します。
- 本書のすべてまたは一部をエムオーテックス株式会社の許諾なく複製し、頒布その他の行為を行うことはできません。また、本書の内容・構成をエムオーテックス株式会社の許諾なく改変し、改変したものを複製し、頒布その他の行為を行うことはできません。
- 本ソフトウェアの仕様ならびに本書の記載内容は、予告なしに変更することがあります。
- MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。

第 1 章 導入の流れ

LANSCOPE エンドポイントマネージャー クラウド版 Free で Windows デバイスを管理するために必要なプログラムや利用開始までの流れを説明します。

デバイス管理に必要な LANSCOPE クライアント

Windows デバイスを管理するときに利用するプログラムを「LANSCOPE クライアント」と呼びます。

LANSCOPE クライアントは日本語／英語／中国語（簡体字）の OS に対応しています。

Windows デバイスを管理する場合は、次の LANSCOPE クライアントをインストールする必要があります。

| 名称 | 概要 |
|---------------------------|----------------------------------------------------------|
| LANSCOPE Client 必須 | LANSCOPE Client をインストールすることで、エンドポイントマネージャー Free で管理できます。 |

インストール方法

「かんたんインストール」と「カスタムインストール」の 2 通りの方法があります。インストール方法により、インストールまでの流れや設定方法が異なります。

| | かんたんインストール | カスタムインストール |
|-------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| インストール URL | 共通のインストール URL を利用し、デバイス側で LANSCOPE クライアントをインストールする | デバイスごとに異なるインストール URL を利用し、デバイス側で LANSCOPE クライアントをインストールする |
| デバイス管理情報 (*) の紐づけ | 紐づけできない (LANSCOPE クライアントをインストールしたあとに登録) | 紐づけできる (LANSCOPE クライアントをインストールする前に登録) |
| メリット | 共通のインストール URL を利用するため、簡単にインストールできる | インストール完了後、デバイス使用者の情報と紐づくため、整理された状態で管理できる |
| デメリット | デバイス使用者の情報と紐づけできないため、あとで登録する必要がある | <ul style="list-style-type: none"> 事前にデバイス管理情報を登録する必要がある メールを利用できないデバイス使用者がインストールする場合、デバイス使用者へのインストール URL を通知する方法を検討する必要がある |

* : デバイス管理情報は、[リスト] > [デバイス] > 「デバイス詳細」画面で、管理者が任意に編集できる項目のことです。

仮想環境を使用している場合

エンドポイントマネージャー Free がログを取得するためには、仮想環境の日本語化が必要です。

- [1-1 Windows 365 Business の日本語化](#)
- [1-2 Azure Virtual Desktop の日本語化](#)

1-1 Windows 365 Business の日本語化

エンドポイントマネージャー Free がログを取得するためには、仮想環境の日本語化が必要です。ここでは、Windows 365 Business で提供される、Windows 10 を例に説明します。

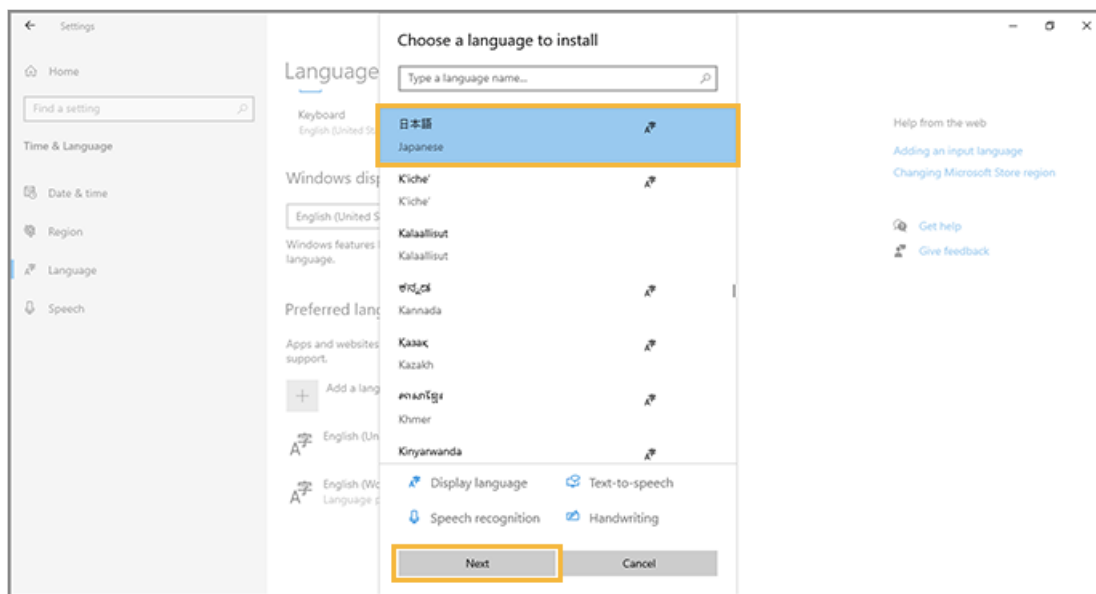
ステップ :

1. [英語 OS に日本語の言語パックをインストールする](#)
2. [OS の言語と地域関係の設定を変更する](#)
3. [OS の日付と時刻の設定を変更する](#)
4. [ローカルグループポリシーの設定を変更する](#)
5. [PowerShell でタイムゾーンを設定する](#)

ステップ 1 : 英語 OS に日本語の言語パックをインストールする

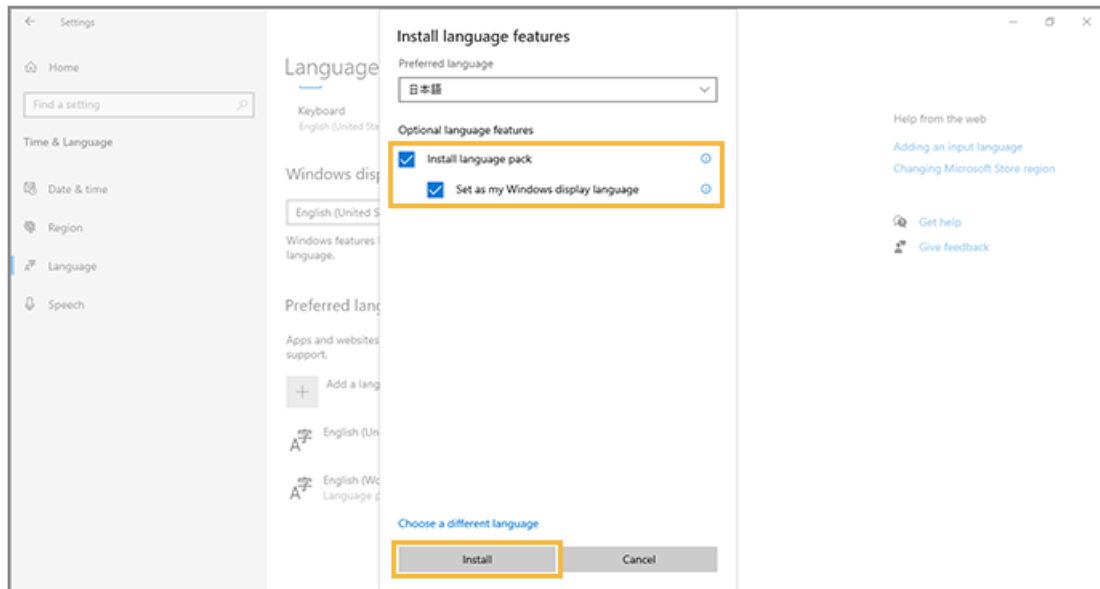
[Start] > [Settings] で、次の手順を実施します。

1. [Times & Language] > [Language] をクリックし、[Add a Language] をクリックします。
2. [日本語] を選択し、[Next] をクリックします。



3. [Install language pack] と [Set as my Windows display language] をチェックし、[Install] をクリックします。

[Install language pack] [Set as my Windows display language] が表示されない場合は、最新の OS ビルドが適用されていません。最新の OS ビルドを適用してから実施してください。



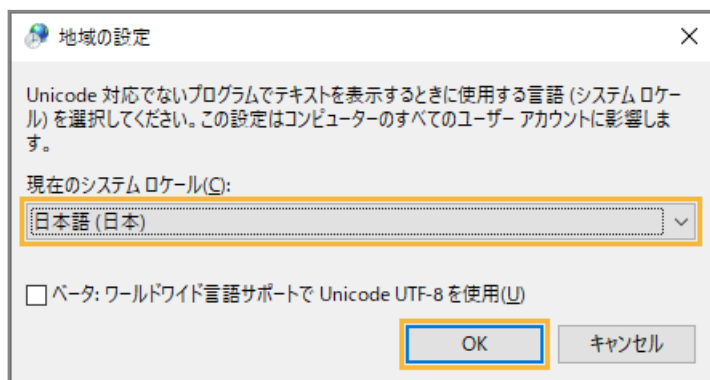
4. 画面上部の「Windows display language」が「日本語」になったことを確認します。
5. [Times & Language] > [Region] をクリックし、「Country or region」を「japan」に変更します。
6. 「Regional format」が「Recommended [Japanese(Japan)]」になったことを確認します。
7. ログオンユーザーをサインアウトします。
→ 設定した言語が反映されます。

ステップ 2： OS の言語と地域関係の設定を変更する

1. [コントロールパネル] > [時刻と地域] > [日付、時刻、数値形式の変更] をクリックします。
2. 「地域」 > 「管理」タブの [設定のコピー] をクリックします。
3. [ようこそ画面とシステムアカウント] [新しいユーザーアカウント] をチェックし、[OK] をクリックします。



4. OS の再起動を求める画面で [キャンセル] をクリックします。
5. 再度表示された「地域」 > 「管理」 タブの [システムロケールの変更] をクリックします。
6. 「現在のシステムロケール」で [日本語 (日本)] を選択し、[OK] をクリックします。



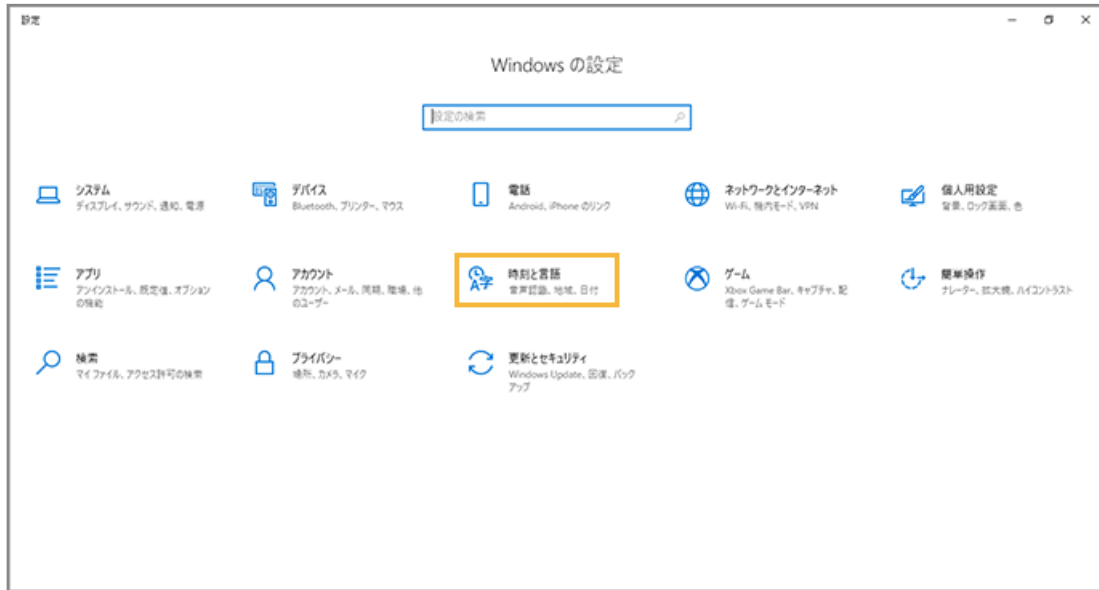
7. OS の再起動を求める画面で [OK] をクリックします。

→ OS のロケール設定が完了します。

ステップ 3 : OS の日付と時刻の設定を変更する

1. [スタート] > [設定] をクリックします。

2. [時刻と言語] をクリックします。



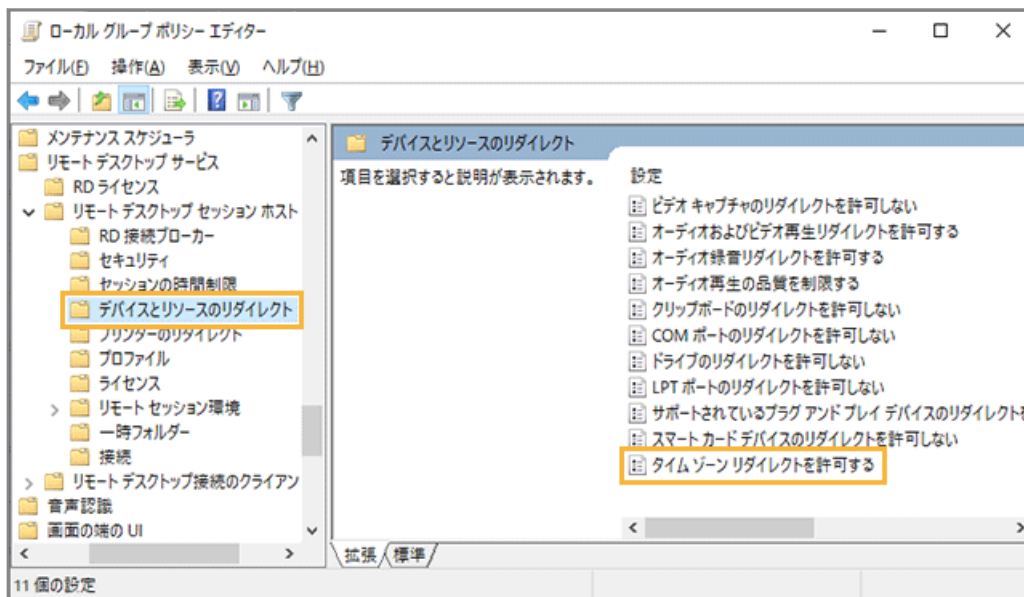
3. 「日付と時刻」で、タイムゾーンを「(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京」に設定します。



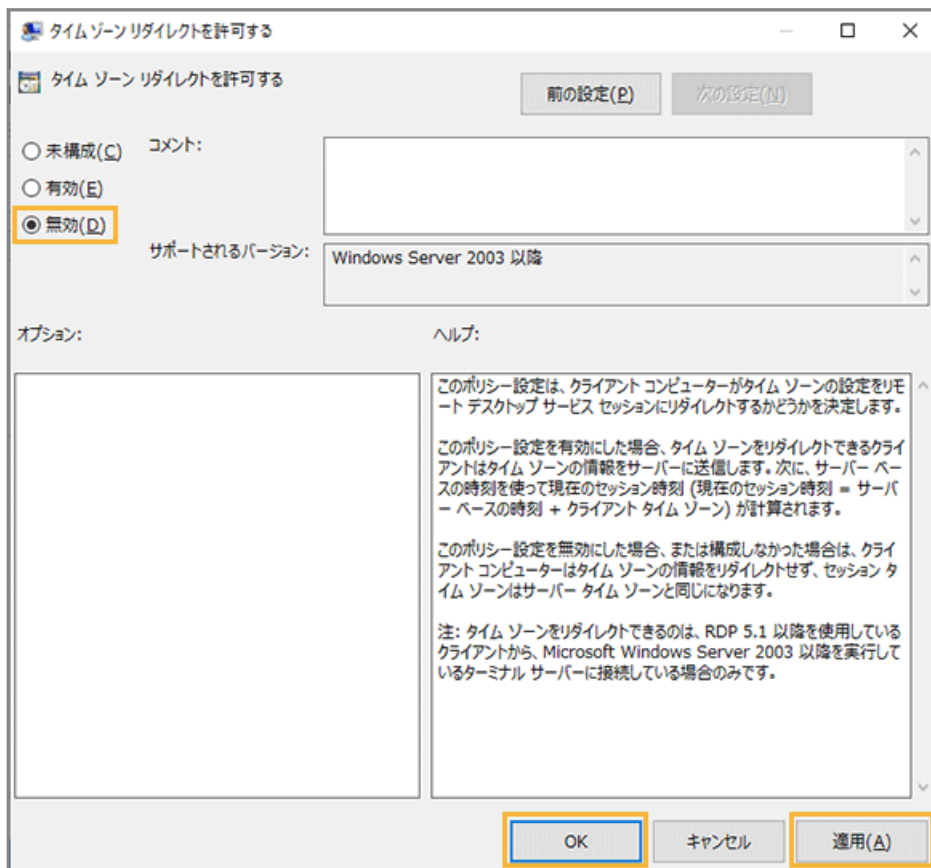
→ OS 上の時刻に反映されます。

ステップ 4： ローカルグループポリシーの設定を変更する

1. 「ローカル グループ ポリシー エディター」を開きます。
2. 「コンピューターの構成」 > 「管理者テンプレート」 > 「Windows コンポーネント」 > 「リモート デスクトップ サービス」 > 「リモート デスクトップ セッション ホスト」 > 「デバイスとリソースのリダイレクト」をクリックし、「タイムゾーン リダイレクトを許可する」をダブルクリックします。



3. [無効] を選択し、[適用] をクリックして、[OK] をクリックします。



4. 端末を再起動します。

ステップ 5 : PowerShell でタイムゾーンを設定する

1. 管理者権限で「Windows PowerShell」を起動します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
Set-TimeZone -Id "Tokyo Standard Time"
```

A screenshot of a Windows PowerShell terminal window. The window title is "Windows PowerShell". The text inside the terminal reads: "Windows PowerShell", "Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.", "新しいクロスプラットフォームの PowerShell をお試しください https://aka.ms/pscore6", "PS C:\Users#w365user01> Set-TimeZone -Id 'Tokyo Standard Time'", and "PS C:\Users#w365user01>". The command "Set-TimeZone -Id 'Tokyo Standard Time'" is highlighted with a yellow box.

→ 即時反映されます。

1-2 Azure Virtual Desktop の日本語化

エンドポイントマネージャー Free がログを取得するためには、仮想環境の日本語化が必要です。ここでは、Azure Virtual Desktop で提供される、Windows 10 を例に説明します。

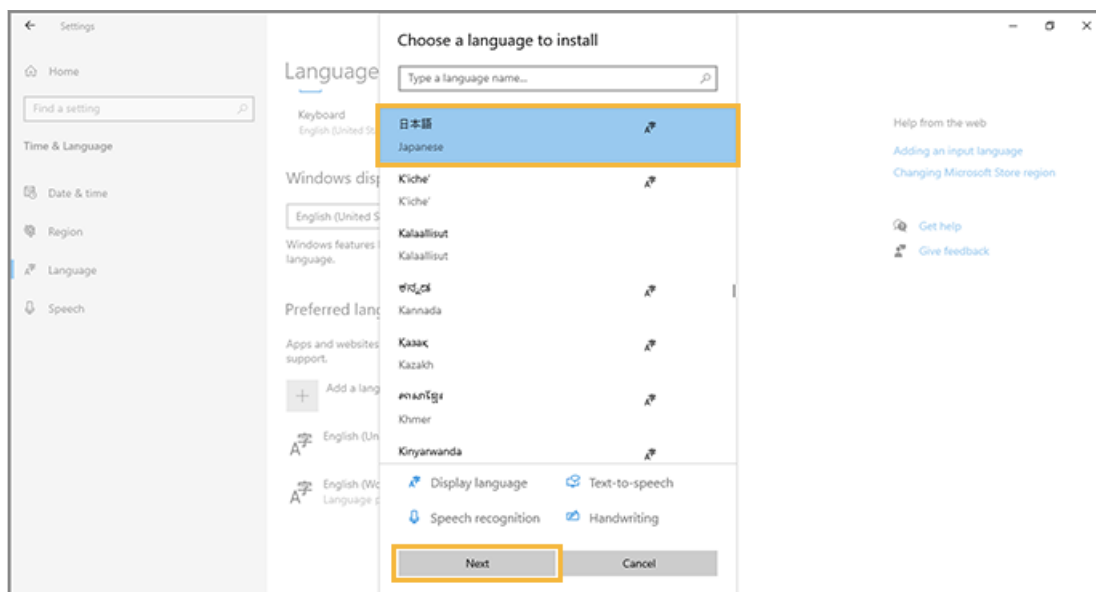
ステップ :

1. [英語 OS に日本語の言語パックをインストールする](#)
2. [OS の言語と地域関係の設定を変更する](#)
3. [OS の日付と時刻の設定を変更する](#)

ステップ 1 : 英語 OS に日本語の言語パックをインストールする

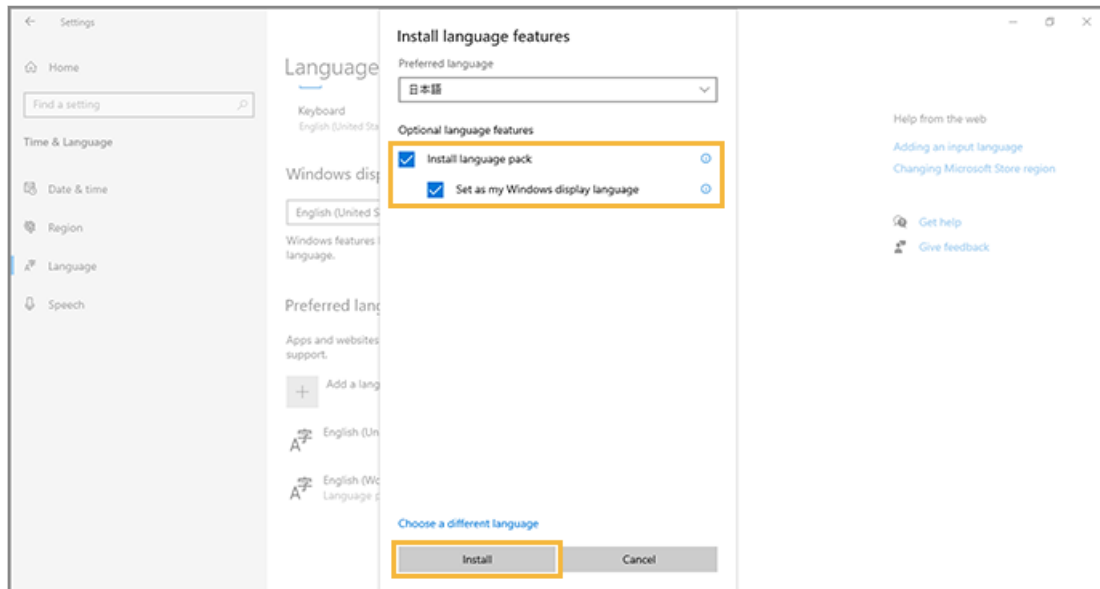
[Start] > [Settings] で、次の手順を実施します。

1. [Times & Language] > [Language] をクリックし、[Add a Language] をクリックします。
2. [日本語] を選択し、[Next] をクリックします。



3. [Install language pack] と [Set as my Windows display language] をチェックし、[Install] をクリックします。

[Install language pack] [Set as my Windows display language] が表示されない場合は、最新の OS ビルドが適用されていません。最新の OS ビルドを適用してから実施してください。



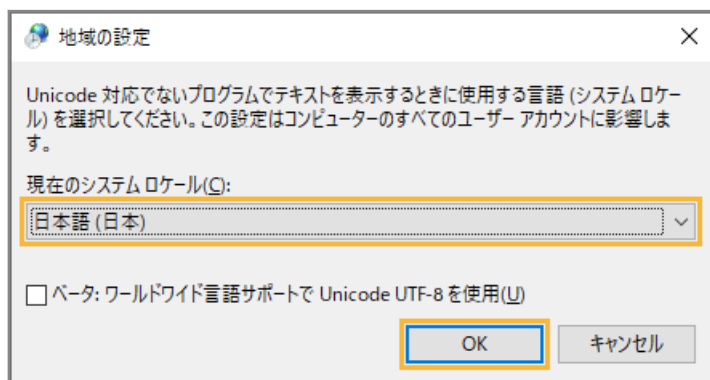
4. 画面上部の「Windows display language」が「日本語」になったことを確認します。
5. [Times & Language] > [Region] をクリックし、「Country or region」を「japan」に変更します。
6. 「Regional format」が「Recommended [Japanese(Japan)]」になったことを確認します。
7. ログオンユーザーをサインアウトします。
→ 設定した言語が反映されます。

ステップ 2： OS の言語と地域関係の設定を変更する

1. [コントロールパネル] > [時刻と地域] > [日付、時刻、数値形式の変更] をクリックします。
2. 「地域」 > 「管理」 タブの [設定のコピー] をクリックします。
3. [ようこそ画面とシステムアカウント] [新しいユーザーアカウント] をチェックし、[OK] をクリックします。



4. OS の再起動を求める画面で [キャンセル] をクリックします。
5. 再度表示された「地域」 > 「管理」 タブの [システムロケールの変更] をクリックします。
6. 「現在のシステムロケール」で [日本語 (日本)] を選択し、[OK] をクリックします。



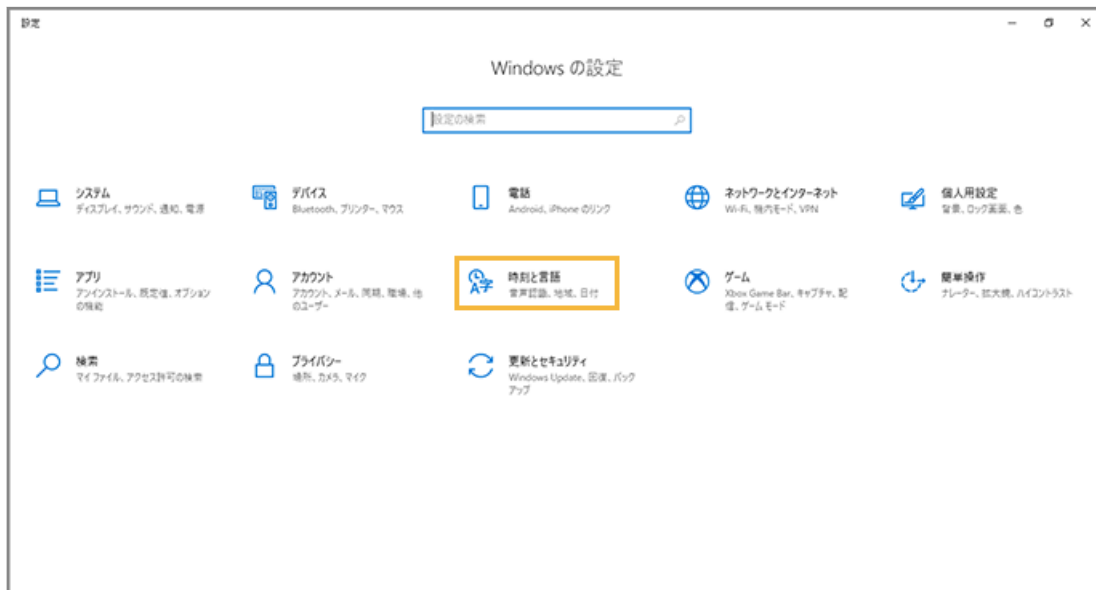
7. OS の再起動を求める画面で [OK] をクリックします。

→ OS のロケール設定が完了します。

ステップ 3 : OS の日付と時刻の設定を変更する

1. [スタート] > [設定] をクリックします。

2. [時刻と言語] をクリックします。



3. 「日付と時刻」で、タイムゾーンを「(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京」に設定します。



→ OS 上の時刻に反映されます。

第2章 かんたんインストール

かんたんインストール（共通のインストール URL）を利用し、LANSCOPE クライアントをインストールします。

1. [2-1 デバイスを準備する](#) **必須**

デバイスを管理するために、必要な設定があります。必要に応じて、デバイス側で設定します。

2. [2-2 インストーラーを作成する](#) **必須**

LANSCOPE クライアントのインストーラーを作成します。

3. [2-3 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする](#) **必須**

デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールします。

4. [2-4 グループを設定する](#)

デバイスの情報を編集するとき、グループを設定できます。設定するには、事前にグループを作成します。

5. [2-5 管理対象デバイスの情報を編集する](#)

「デバイス管理名」と「使用者名」を、デバイスを特定できる名前に編集します。

2-1 デバイスを準備する

必須

デバイスを管理するために、必要な設定があります。必要に応じて、デバイス側で設定します。

ウイルス対策ソフトの設定

LANSCOPE Client のインストールフォルダーは、ウイルス対策ソフトのリアルタイムスキャンの対象から除外してください。

CPMS を導入の場合、LANSCOPE サイバープロテクション powered by CylancePROTECT の管理コンソールで次のフォルダーを除外登録してください。

- C:¥Program Files (x86)¥MOTEX
- C:¥Windows¥TEMPLSPANCLIENT
- C:¥Windows¥TEMP¥TEMPLSP
- C:¥Windows¥TEMP¥TEMPLSPANCLIENT
- C:¥Windows¥TEMPLSPCL
- %userprofile%¥AppData¥Local¥Temp¥TEMPLSP

「%userprofile%」は、ワイルドカードでも登録できます。

BitLocker の設定

リモートワイプを利用するためには、事前に BitLocker の設定が必要です。

機種や OS バージョンにより、画面や手順が異なる場合があります。

注意

- TPM が搭載されていないデバイスの場合は、BitLocker 機能が搭載されていてもリモートワイプはできません。
- PIN コードや USB キーなどの暗号化の解除設定をしている場合、リモートワイプはできません。
- リモートワイプができないデバイスは、BitLocker を有効にしても「BitLocker 回復キー」を取得できない場合があります。

1. [コントロールパネル] > [BitLocker ドライブ暗号化] をクリックします。
2. 左下メニューに [TPM の管理] が表示されていることを確認し、[BitLocker を有効にする] をクリックします。



3. 回復キーのバックアップ方法を選択し、[次へ] をクリックします。
リモートワイプを実行したデバイスを復旧させるために必要です。任意のバックアップ方法を選択してください。
4. ドライブ暗号化する範囲を選択し、[次へ] をクリックします。
[ドライブ全体を暗号化する] を選択すると、安全性が高まります。ただし、暗号化に時間がかかることがあります。
5. 使用する暗号化モードの選択を求められた場合は、任意の暗号化モードを選択し、[次へ] をクリックします。
6. BitLocker システムチェックを実行するかどうかを選択し、[続行] をクリックします。
[BitLocker システムチェックを実行する] をチェックすると、安全性が高まります。ただし、デバイスの再起動が必要です。
→暗号化が開始します。完了ダイアログが表示されたら、[閉じる] をクリックします。
7. 選択したドライブに「BitLocker が有効です」と表示されていることを確認します。

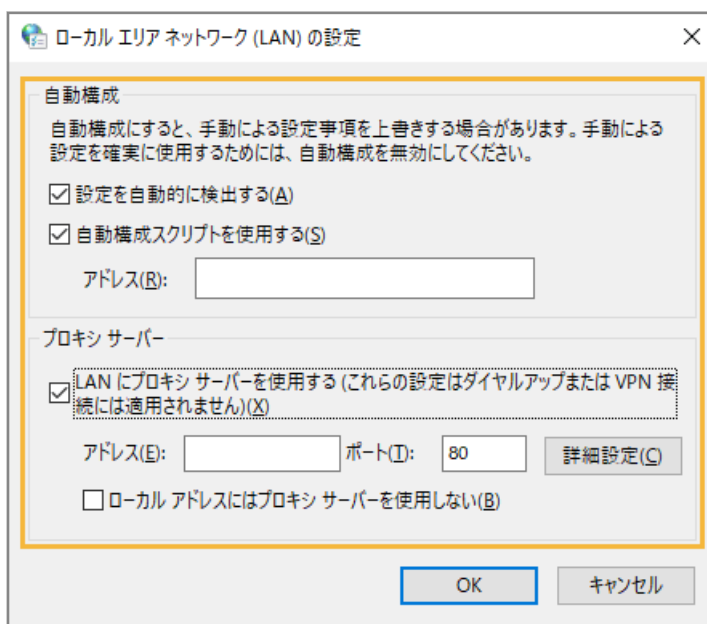


プロキシサーバーの設定

プロキシサーバーを経由する場合、事前にプロキシサーバーの設定が必要です。すでに設定している場合も、次に示すところに設定されているかを必ず確認してください。

1. [コントロールパネル] > [インターネットオプション] をクリックします。
2. [接続] タブの [LAN の設定] をクリックします。
3. 利用しているプロキシ環境に応じて設定し、[OK] をクリックします。

プロトコルごとに設定が必要な場合は、[詳細設定] をクリックし、設定します。なお、エンドポイントマネージャー Free では「Secure」プロトコルを使用します。



Active Directory のグループポリシー設定

Windows アップデートのインストール時、デバイスが Microsoft アップデートサーバーにアクセスできるようにする必要があります。

インストール設定をする場合、Active Directory のグループポリシー「インターネット上の Windows Update に接続しない」を「無効」に設定してください。「有効」に設定していると、Microsoft アップデートサーバーにアクセスできず、インストールできません。

2-2 インストーラーを作成する

LANSCOPE クライアントのインストーラーを作成します。

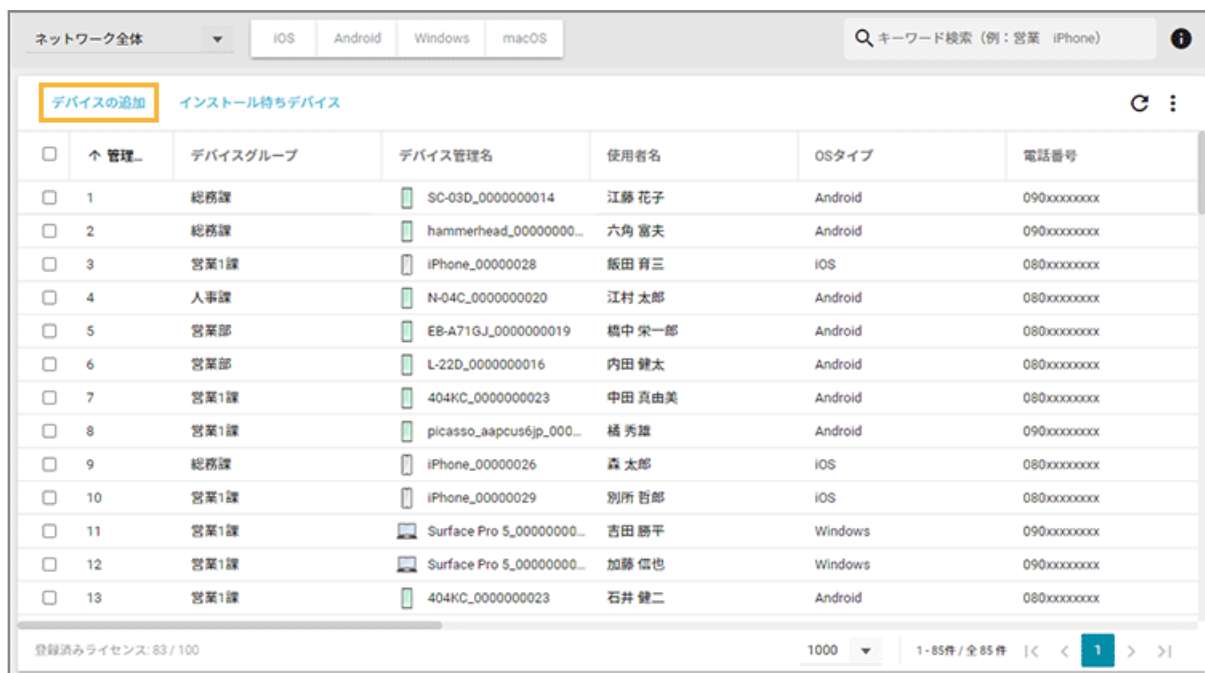
Windows デバイスには、次のインストール方法があります。インストール方法により、インストーラーの設定が異なります。

| インストール方法 | 内容 |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 手動でインストールする | デバイスごとに手動で LANSCOPE クライアントをインストールします。 |
| ログオンスクリプトで自動インストールする | ログオンスクリプトを使って、自動で LANSCOPE クライアントをインストールします。Active Directory で管理しているデバイスだけが対象です。 |

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



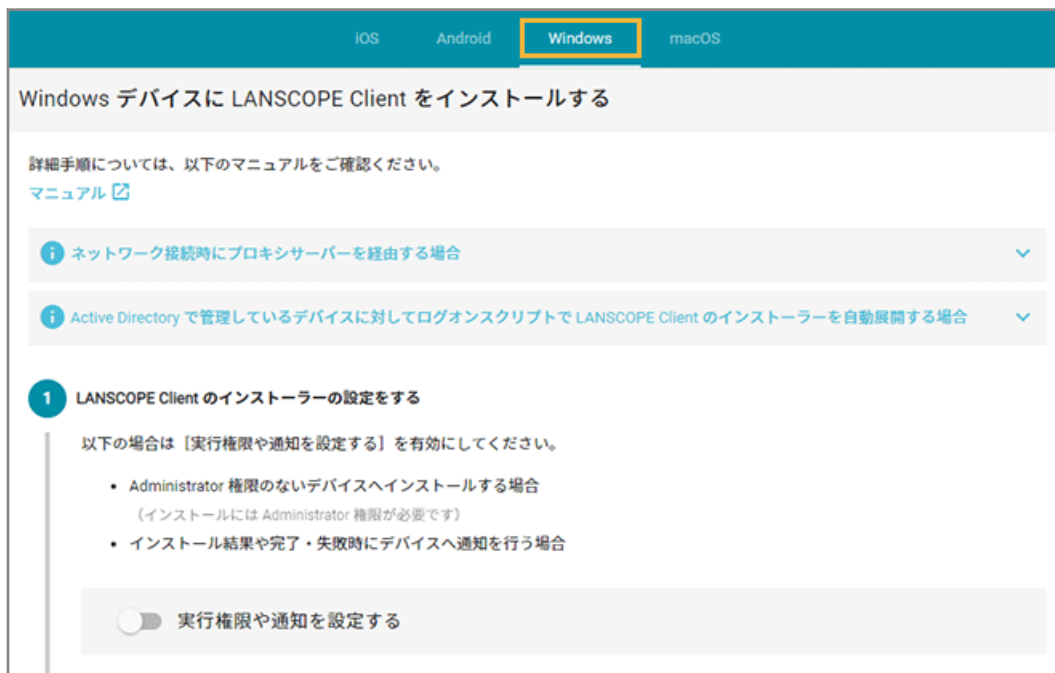
2. [デバイスの追加] をクリックします。



3. [かんたんインストール] をクリックします。



4. [Windows] をクリックします。



5. 必要に応じてインストーラーの設定をし、[この内容で設定する] をクリックします。

ポイント

通知設定をオフにすると、インストール時に何も表示されずインストールが完了します。インストール結果を通知したい場合は、通知をオンにして設定してください。

ログオンスクリプトで自動インストールする場合は、実行ユーザーの「ユーザー名」にドメイン管理者ユーザーのID（ドメイン名¥ビルトイン Administrator）を設定します。

→ インストーラーが作成されます。

6. 設定ファイルのダウンロード URL を確認します。

7. インストーラーのダウンロード URL を確認します。

3 LANSCOPE Client のインストーラーをダウンロードする

⚠ LANSCOPE Client のインストーラーは、手順2でダウンロードした設定ファイルと同じ場所に保存してください。

URL からダウンロード

<https://cdn-lanscope.com/clients/lanclient/lanclient-20230629101448.exe>

有効期限：2023/06/29 10:14:48

URLをコピー

⚠ 別のページに移動すると、作成した URL は再表示できません。URL をコピーして保管してください。

直接ダウンロード

ダウンロード

4 LANSCOPE Client のインストーラーを起動し、インストールする

ダウンロードしたインストーラーを実行し、画面上の指示に従ってインストールを完了させてください。

登録完了

インストールが完了すると LANSCOPE でデバイスを管理できるようになります。
※ インストール完了後、反映まで時間がかかる場合があります。

[デバイス一覧](#)

対象 OS はこちらをご確認ください。
[動作確認OS一覧](#)

- 手動でインストールする場合

設定ファイル／インストーラーのダウンロード URL をコピーし、ファイルサーバーやポータルサイトなどに URL をアップし、デバイスからアクセスできるようにしておきます。

- ログオンスクリプトで自動インストールする場合

設定ファイル／インストーラーのダウンロード URL にアクセスし、ダウンロードしておきます。

2-3 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする

必須

デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールします。

■ 手動でインストールする

デバイスごとに手動で LANSCOPE クライアントをインストールします。

機種や OS バージョンにより、画面や手順が異なる場合があります。

1. **ダウンロード URL にアクセスし、LANSCOPE Client の設定ファイル/インストーラーをダウンロードして、同じフォルダーに保存します。**

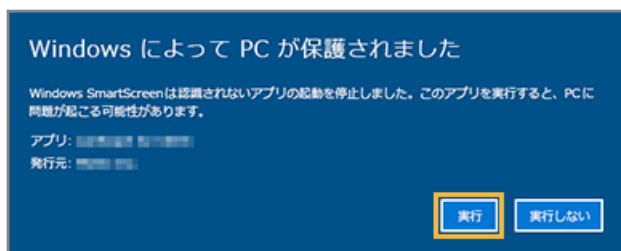
注意

設定ファイルとインストーラーが同じフォルダーに保存されていることを確認してください。同じフォルダーにない場合、LANSCOPE Client のインストールに失敗します。

2. **インストーラーを実行します。**

→ Windows SmartScreen の画面が表示された場合は、[詳細情報] をクリックします。

3. **[実行] をクリックします。**



→ LANSCOPE Client のインストールが開始されます。

4. **プロキシサーバーを経由してネットワークに接続する場合、必要に応じて内容を入力し、[次へ] をクリックします。**

ポイント

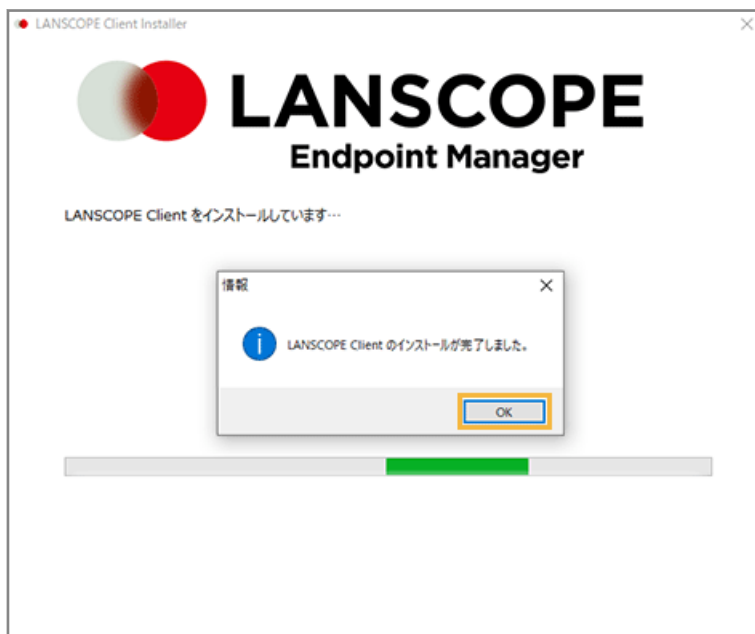
プロキシ設定が有効な場合にだけ表示されます。



5. インストール完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

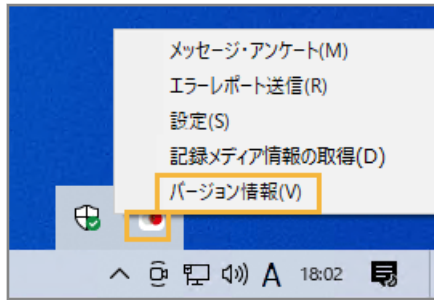
ポイント

インストーラーの設定で、通知をオフにしている場合は表示されません。



→ LANSCOPE Client のインストールが完了します。

6. タスクバーの通知領域の LANSCOPE Client を右クリックし、[バージョン情報] をクリックします。



7. バージョン情報に「会社名」「管理 No.」が表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。



ポイント

LANSCOPE Client の登録が完了すると、[リスト] > [デバイス] のデバイス一覧に表示されます。

■ ログオンスクリプトで自動インストールする

Active Directory で管理しているデバイスに、ログオンスクリプトを使って LANSCOPE Client を自動インストールします。

ステップ：

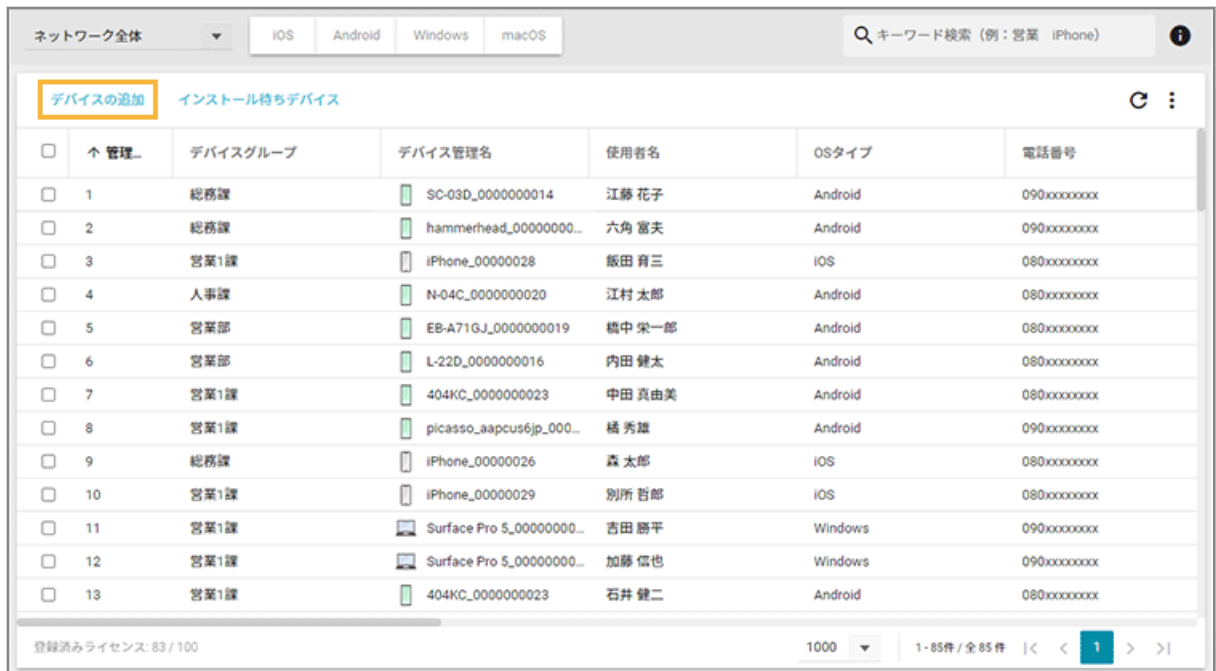
1. [ログオンスクリプトファイルを作成する](#)
2. [インストーラーを設置する](#)
3. [ログオンスクリプトファイルをグループポリシーに設定する](#)
4. [グループポリシーオブジェクトのリンクを設定する](#)
5. [設定したグループポリシーをすぐに適用する](#)

ステップ 1： ログオンスクリプトファイルを作成する

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2. [デバイスの追加] をクリックします。



3. [かんたんインストール] をクリックします。



4. [Active Directory で管理しているデバイスに対してログオンスクリプトで LANSCOPE Client のインストーラーを自動展開する場合] をクリックし、[VBS をダウンロード] をクリックします。



→ 「AnClientInstaller.vbs」がダウンロードされます。

5. ダウンロードしたログオンスクリプトファイル (AnClientInstaller.vbs) をテキストエディターで開き、次のように編集します。

| 項目 | 値 |
|--------|----------------------|
| XXXXXX | ドメインコントローラーのコンピューター名 |

| 項目 | 値 |
|-------|-----------------------|
| ***** | ダウンロードしたインストーラーのファイル名 |

```
objWShell.Run "\\xxxxx\NETLOGON\*****.exe", 0, False
```

→ ログオンスクリプトファイルの作成が完了します。

ステップ 2： インストーラーを設置する

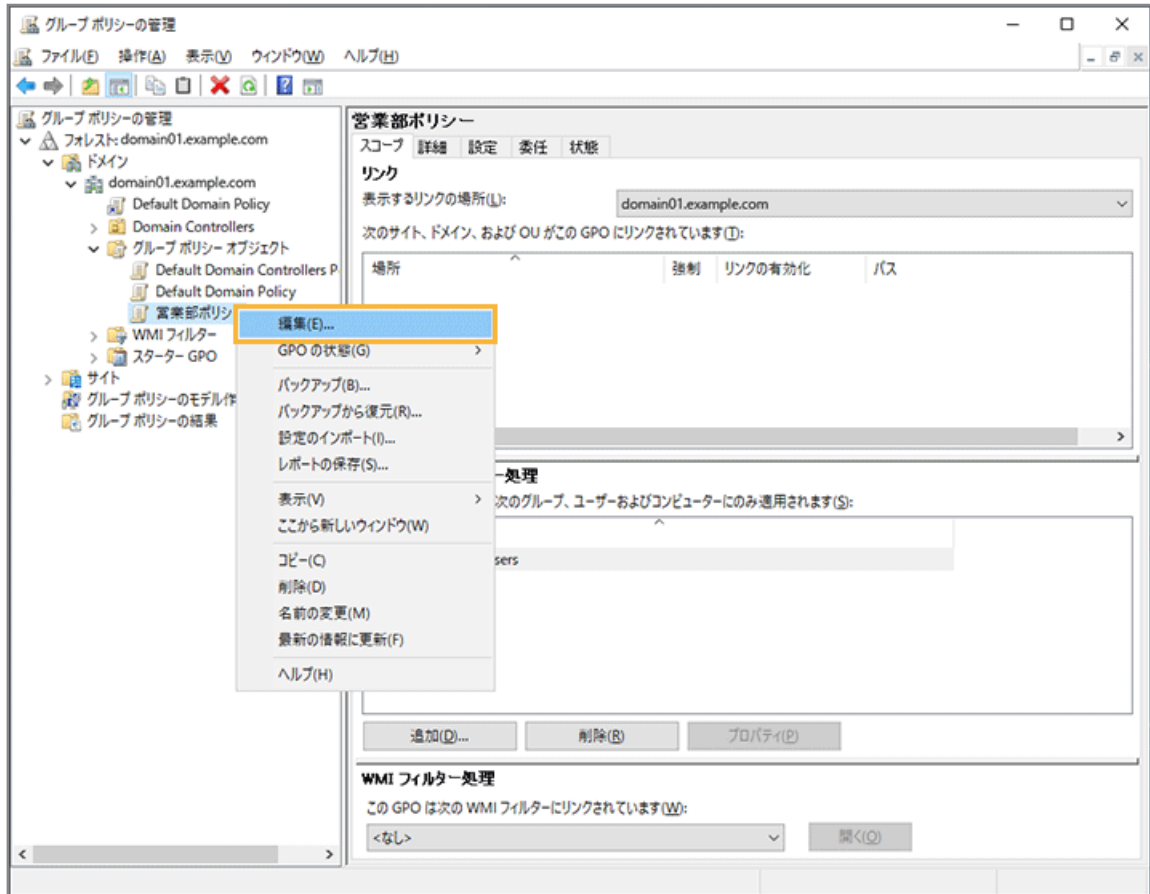
インストーラーをドメインコントローラーに配置します。

1. ドメインコントローラーにドメイン管理者ユーザーでログオンします。
2. エクスプローラーで、**scripts** フォルダーを開きます。
通常は「C:¥Windows¥SYSVOL¥sysvol¥ドメイン名¥scripts」です。
3. **scripts** フォルダーに設定ファイル/インストーラーをコピーします。
4. **scripts** フォルダーに「Authenticated Users」または「Everyone」の実行権限があることを確認します。

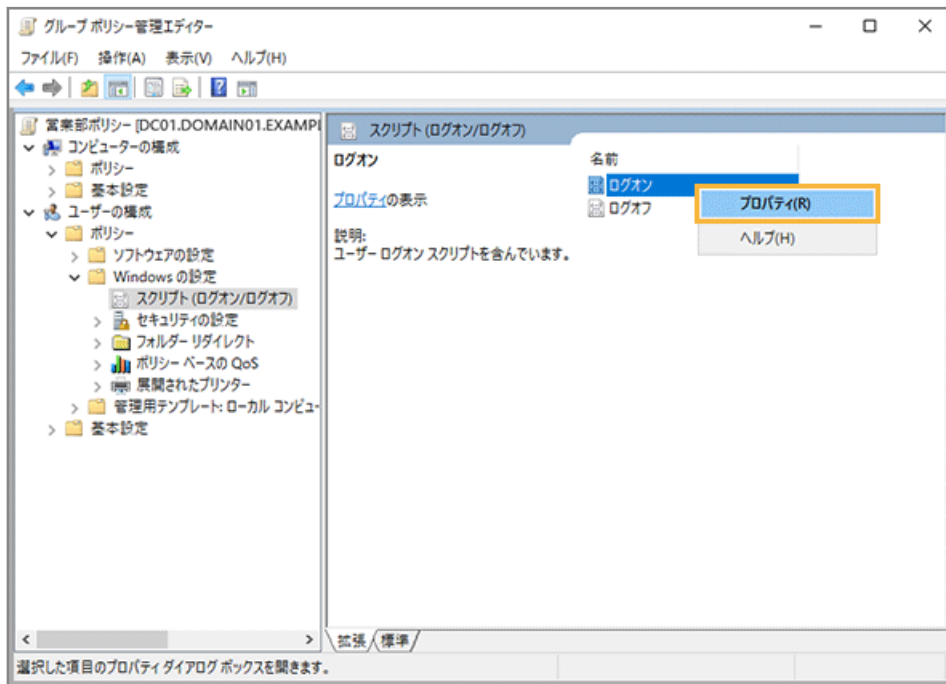
ステップ 3： ログオンスクリプトファイルをグループポリシーに設定する

ログオンスクリプトファイル (AnClientInstaller.vbs) をグループポリシーに設定します。ここでは、Windows Server 2019 の例で説明します。

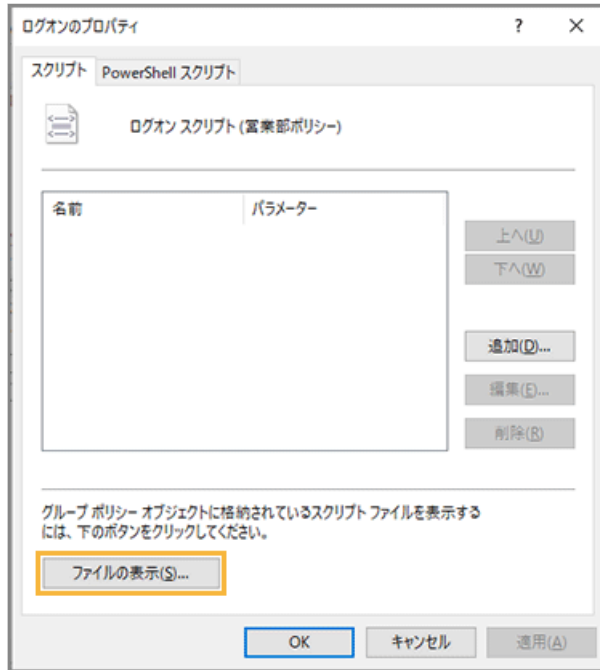
1. ドメインコントローラーにドメイン管理者ユーザーでログオンします。
2. [スタート] > [すべてのプログラム] > [管理ツール] > [グループポリシーの管理] をクリックします。
3. [フォレスト] > [ドメイン] > [ドメイン名] > [グループポリシーオブジェクト] で、ログオンスクリプトを設定するグループポリシーオブジェクトを右クリックし、[編集] をクリックします。
ここでは、営業部ポリシーというグループポリシーオブジェクトを例として、事前に作成しています。



4. [グループポリシーオブジェクト名] > [ユーザーの構成] > [ポリシー] > [Windows の設定] > [スクリプト (ログオン/ログオフ)] を開き、[ログオン] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

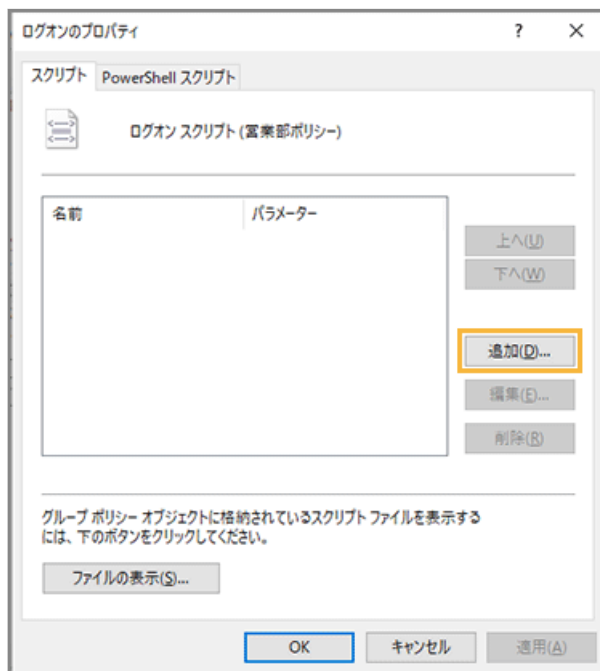


5. [ファイルの表示] をクリックします。

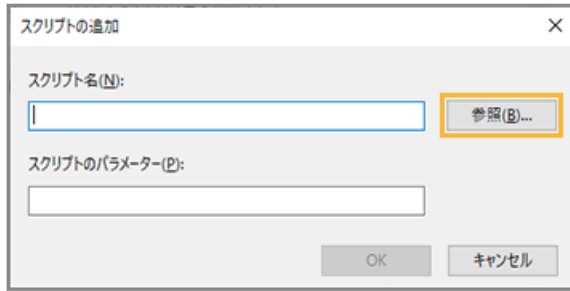


→ エクスプローラーで Logon フォルダーが開きます。

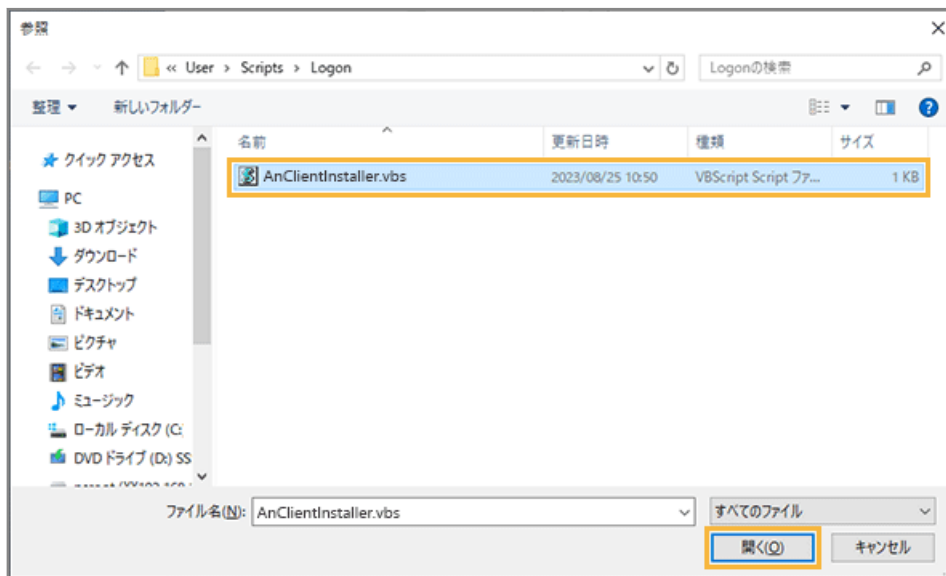
6. ログオンスクリプトファイル (AnClientInstaller.vbs) を Logon フォルダーにコピーします。
7. コピーしたログオンスクリプトファイルに、「Authenticated Users」または「Everyone」の実行権限があることを確認し、Logon フォルダーを閉じます。
8. [追加] をクリックします。



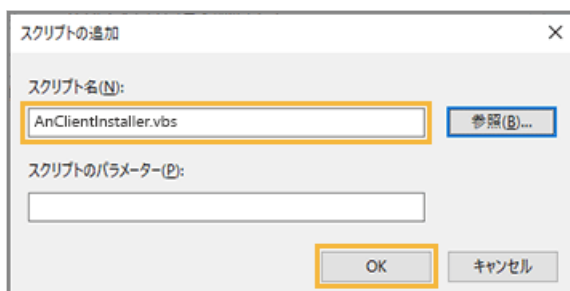
9. [参照] をクリックします。



10. コピーしたログオンスクリプトファイル (AnClientInstaller.vbs) を選択し、[開く] をクリックします。



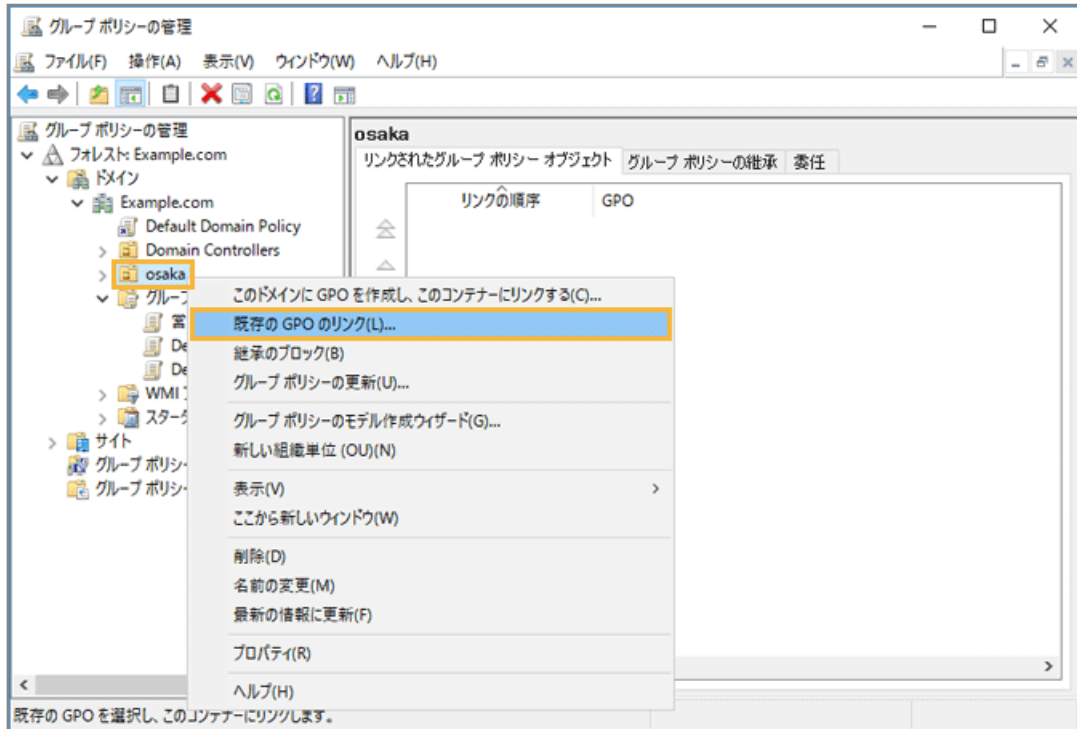
11. ログオンスクリプトファイル (AnClientInstaller.vbs) が設定されていることを確認し、[OK] をクリックします。



ステップ 4： グループポリシーオブジェクトのリンクを設定する

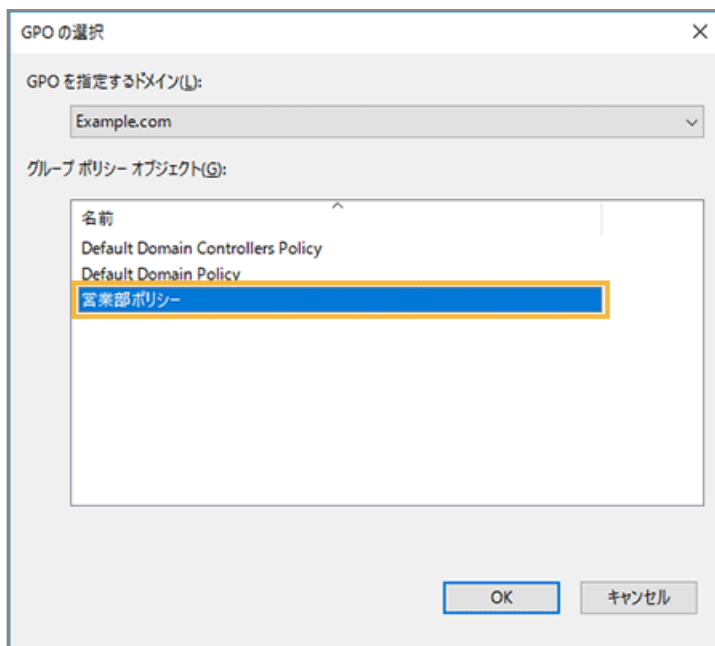
グループポリシーの適用先を設定します。

1. 作成したポリシーをリンクする、サイト/ドメイン/OUのいずれかを右クリックし、[既存の GPO のリンク] をクリックします。

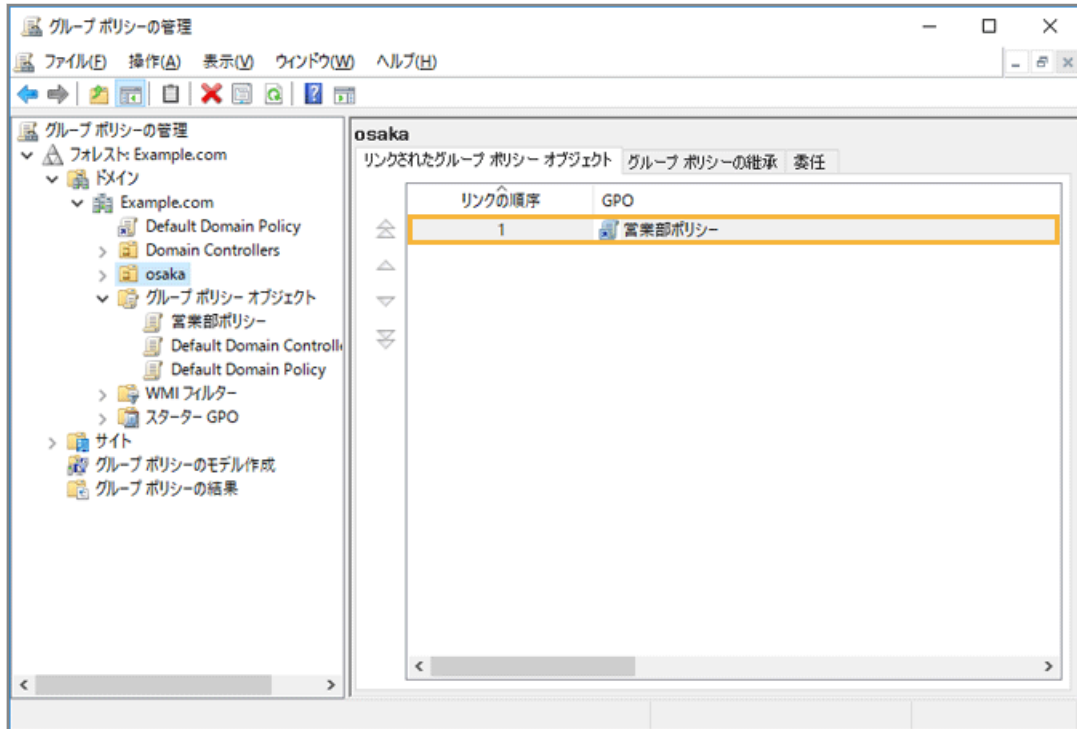


2. 「グループポリシーオブジェクト」からリンクするポリシーを選択し、[OK] をクリックします。

ここでは例として、営業部ポリシーを選択します。



3. 「リンクされたグループポリシーオブジェクト」にリンクされていることを確認します。



ステップ 5： 設定したグループポリシーをすぐに適用する

ログオンスクリプトを設定したグループポリシーが各デバイスに適用されるまでには、時間がかかります。各デバイスにすぐに適用させるには、デバイス側で gpupdate コマンドを実行します。すぐに適用する必要がない場合は、実行する必要はありません。

1. 各デバイスにドメインユーザーでログオンします。

2. コマンドプロンプトを起動します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [アクセサリ] (または [Windows システムツール]) > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] をクリックして起動します。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は許可します。

3. 次のコマンドを実行します。

```
gpupdate
```

→ 「ポリシーの更新が正常に完了しました。」と表示されます。

4. 一度ログオフし、ログオンし直します。

2-4 グループを設定する

デバイスの情報を編集するとき、グループを設定できます。設定するには、事前にグループを作成します。グループは5階層まで作成できます。

■ グループを手動で設定する

1. [ルール] の [デバイス設定] > [デバイスグループ設定] をクリックします。



2. 設定するデバイスグループの上位階層のデバイスグループをクリックし、[追加] をクリックします。



→ 選択した階層の下に「新しいデバイスグループ」が追加されます。

3. 「新しいデバイスグループ」をダブルクリックし、「デバイスグループ名」と「グループコード」を入力します。

注意

- グループコードには、一意の値を入力してください。
- 入力できる文字の種類に制限はありません（英字／数字／漢字／ひらがな／カタカナ可）。
- 入力できる文字数は、100文字以内です。



4. [保存] をクリックします。

■ グループを一括で設定する

1. [ルール] の [デバイス設定] > [デバイスグループ設定] をクリックします。



2. ☰ をクリックし、[エクスポート] をクリックします。



→ CSV ファイルがエクスポートされます。

3. エクスポートしたファイルを編集し、インポートファイルを作成します。

- 「グループ名」「グループコード」「上位グループコード」を入力します。
- 「上位グループコード」が未記入の場合、1 階層目に設定されます。

注意

- グループコードには、一意の値を入力してください。
- 入力できる文字の種類に制限はありません（英字／数字／漢字／ひらがな／カタカナ可）。
- 入力できる文字数は、100 文字以内です。

4. をクリックし、[インポート] をクリックします。



5. 管理コンソールに記載の手順に従って、インポートします。

(1) [ファイルを選択] をクリックし、作成したインポートファイルを選択します。

ファイルの内容が正しく読み込まれない場合は、エンコードを確認します。



(2) [自動選択] をクリックします。



→ 「関連づける列名」が自動的に選択されます。

「項目名」と「ファイルの列名」の項目が一致していないと自動的に選択されません。その場合は、対応する項目を1つずつ紐づけます。

(3) インポートファイルに記載されていないグループを管理コンソールから削除する場合は、チェックします。



(4) [インポート] をクリックします。

→ インポートが完了します。

6. 内容を確認し、[保存] をクリックします。

デバイスグループ設定

保存

追加 削除

ネットワーク全体

- 総務課 [SOUJUKA]
- 人事課 [JINJIKA]
- ▶ 営業部 [EIGYUBU]
- ▶ システム部 [SYSTEMBU]
- ▶ サポートセンター [SUPPORTCENTER]
- ▶ 運輸部 [UNYUBU]
- 検証用 [KENSHO]

2-5 管理対象デバイスの情報を編集する

「デバイス管理名」と「使用者名」を、デバイスを特定できる名前に編集します。

ポイント

管理コンソール上で特定デバイスを表示する場合、おもに「デバイス管理名」と「使用者名」を利用します。そのため、「デバイス管理名」と「使用者名」は、デバイスを特定できる値での登録をおすすめします。

LANSCOPE Client をインストールすると、自動で「デバイス管理名」が登録されます。

Windows デバイスは、コンピューター名で登録されます。

■ デバイス情報を1台ずつ編集する

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2. デバイスをクリックします。

| <input type="checkbox"/> | ↑ 管理 | デバイスグループ | デバイス管理名 | 使用者名 | OSタイプ | 電話番号 |
|--------------------------|------|----------|---------------------------|--------|---------|-------------|
| <input type="checkbox"/> | 1 | 総務課 | SC-03D_0000000014 | 江藤 花子 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 2 | 総務課 | hammerhead_00000000... | 六角 富夫 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 3 | 営業1課 | iPhone_0000000028 | 飯田 育三 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 4 | 人事課 | N-04C_0000000020 | 江村 太郎 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 5 | 営業部 | EB-A71GJ_0000000019 | 橋中 栄一郎 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 6 | 営業部 | L-22D_0000000016 | 内田 健太 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 7 | 営業1課 | 404KC_0000000023 | 中田 真由美 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 8 | 営業1課 | picasso_aapcus6jp_000... | 橘 秀雄 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 9 | 総務課 | iPhone_0000000026 | 森 太郎 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 10 | 営業1課 | iPhone_0000000029 | 別所 哲郎 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 11 | 営業1課 | Surface Pro 5_00000000... | 吉田 勝平 | Windows | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 12 | 営業1課 | Surface Pro 5_00000000... | 加藤 信也 | Windows | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 13 | 営業1課 | 404KC_0000000023 | 石井 健二 | Android | 080xxxxxxxx |

3. [管理情報] の [編集] をクリックします。



4. 内容を編集し、[保存] をクリックします。



■ デバイス情報を一括で編集する

デバイス情報をエクスポートし、CSV ファイルを編集して、インポートできます。

ステップ：

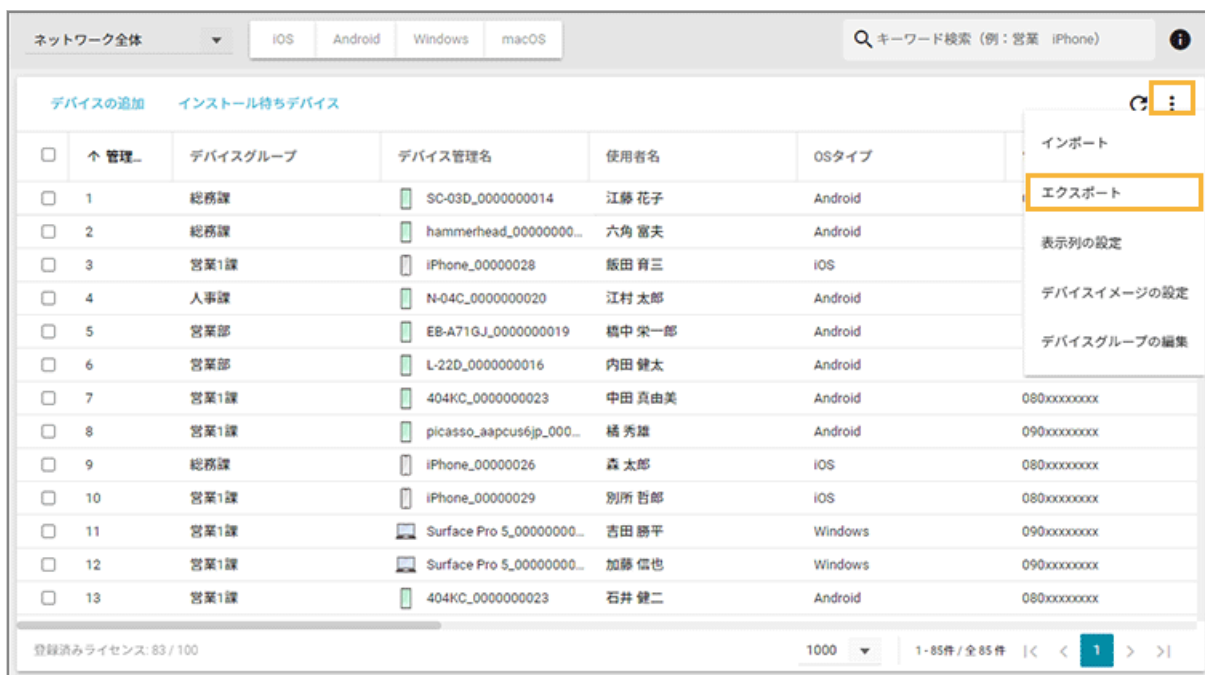
1. [デバイス情報をエクスポートする](#)
2. [エクスポートしたファイルを編集する](#)
3. [編集したデバイス情報をインポートする](#)

ステップ 1： デバイス情報をエクスポートする

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2.  をクリックし、[エクスポート] をクリックします。



3. 管理コンソールに記載の手順に従って設定し、[ダウンロード] をクリックします。

エクスポート

現在指定されている条件のデバイスの情報をエクスポートします。
出力されるファイルの形式はカンマ区切り(CSV)です。

1 ダウンロードするファイルのエンコードを選択

Shift_JIS

2 エクスポートする項目を選択 (18 件)

すべてチェック 表示中の列をチェック すべてははずす

- 共通
- 管理情報
- デバイス情報
- セキュリティ情報
- ネットワーク
- クライアント

3 ファイルのダウンロード

エクスポート対象の件数によっては、ダウンロードが完了するまでに時間がかかる場合がございます。
ダウンロードを実行すると今回選択した項目の設定値が保存されます。

ダウンロード

閉じる

ポイント

エクスポートする項目で、共通の「管理 No.」とデバイス情報の「OS タイプ」は、インポート時にデバイスを紐づけるため、必須項目としてあらかじめチェックされています。

→ CSV ファイルがエクスポートされます。

4. [閉じる] をクリックします。

ステップ 2： エクスポートしたファイルを編集する

ポイント

- インポートできるデバイス情報は、「管理情報」と「デバイスグループ」の項目です。
- 「デバイスグループ階層 1」には、ネットワーク全体配下のデバイスグループを入力してください。「デバイスグループ階層 1」が未入力の場合は、自動的にネットワーク全体になります。

注意

- 「管理 No.」と「OS タイプ」は、インポート時にデバイスの紐づけが必要なため、編集しないでください。
- 項目によっては入力値に制限があります。制限値以外の入力がある場合、インポートに失敗します。

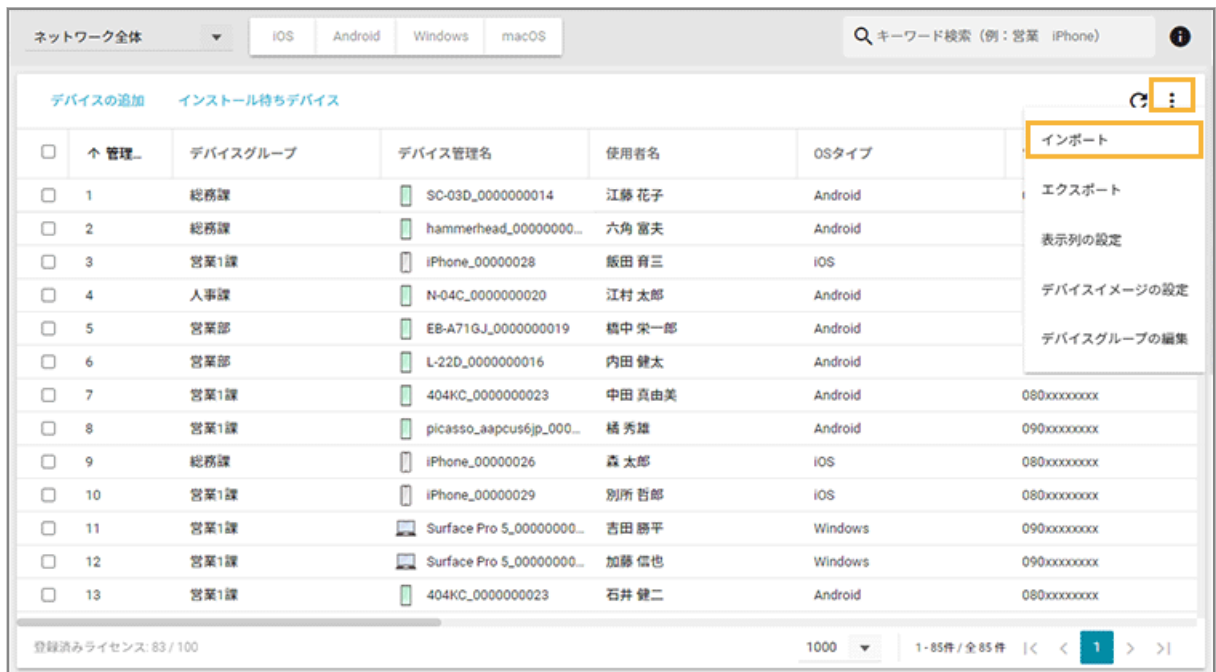
1. 各デバイスの情報を編集し、上書き保存します。

ステップ 3： 編集したデバイス情報をインポートする

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2.  をクリックし、[インポート] をクリックします。



3. 管理コンソールに記載の手順に従って、インポートします。

(1) [ファイルを選択] をクリックし、編集したインポートファイルを選択します。

ファイルの内容が正しく読み込まれない場合は、エンコードを確認します。

1 インポートするファイルの準備

デバイスの情報をインポートで一括編集します。
「管理No.」と「OSタイプ」をもとに登録されているデバイスを特定します。

i インポートデータの作成方法 **i** デバイスグループ階層一覧

2 インポートするファイルを選択

ファイルを選択

エンコード
Shift_JIS

ファイルの内容が正しく読み込まれない場合はエンコードを確認してください。

(2) [自動選択] をクリックします。

3 項目の関連づけ

選択されたファイル: devices_20210322104033.csv

選択されたファイルの列名と LANSCOPE の管理項目を関連づけます。
関連づけされていない項目はインポートされません。

| 項目名 | 関連づける列名 |
|-------------|-------------|
| 管理No. * | 管理No. |
| OSタイプ * | OSタイプ |
| デバイス管理名 | デバイス管理名 |
| デバイスタイプ | デバイスタイプ |
| デバイスグループ階層1 | デバイスグループ階層1 |
| デバイスグループ階層2 | デバイスグループ階層2 |
| デバイスグループ階層3 | デバイスグループ階層3 |
| デバイスグループ階層4 | デバイスグループ階層4 |
| デバイスグループ階層5 | デバイスグループ階層5 |
| Apple ID | |
| 使用者名 | 使用者名 |
| 使用者の社員コード | |

自動選択

< >

| ファイルの列名 |
|-------------|
| 管理No. |
| OSタイプ |
| デバイスグループ階層1 |
| デバイスグループ階層2 |
| デバイスグループ階層3 |
| デバイスグループ階層4 |
| デバイスグループ階層5 |
| 取得日時 |
| デバイス管理名 |
| 使用者名 |
| 使用者の組織名 |
| デバイスタイプ |

→ 「関連づける列名」が自動的に選択されます。

「項目名」と「ファイルの列名」の項目が一致していないと自動的に選択されません。その場合は、対応する項目を1つずつ紐づけます。

(3) プレビューを確認し、[インポート] をクリックします。

プレビュー

| 管理No. | OSタイプ | デバイス管理名 | デバイ |
|-------|---------|----------------------|-------|
| 32 | WINDOWS | Surface 3_0000000056 | LAPTC |
| 31 | WINDOWS | Surface 3_0000000057 | LAPTC |
| 30 | ANDROID | 404KC_0000000029 | MOBIL |
| 29 | MAC | MacBook_00000064 | DESKT |
| 28 | MAC | MacBook_00000066 | DESKT |

[インポート](#)

→ 「インポート完了」画面が表示されます。

インポートが完了しました。

インポート件数： 5 件

※ データが反映されるまでに少しお時間がかかる場合があります。

[デバイス一覧](#)

[インポートに戻る](#)

[デバイス一覧] をクリックすると、インポートしたデータを確認できます。

第3章 カスタムインストール

カスタムインストール（デバイスごとに異なるインストール URL）を利用し、LANSCOPE クライアントをインストールします。

1. **3-1 デバイスを準備する** 必須

デバイスを管理するために、必要な設定があります。必要に応じて、デバイス側で設定します。

2. **3-2 グループを設定する**

事前にグループ設定をしておくこと、設定したグループの配下に LANSCOPE クライアントをインストールしたデバイスが配置されます。

3. **3-3 管理対象デバイスの情報を登録する**

デバイスを紐づけるための情報を登録します。

4. **3-4 インストール手順と URL を確認する** 必須

LANSCOPE クライアントのインストール手順と、インストールに必要な URL / 登録キーを確認します。

5. **3-5 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする** 必須

デバイスごとに LANSCOPE クライアントをインストールします。

3-1 デバイスを準備する

必須

デバイスを管理するために、必要な設定があります。必要に応じて、デバイス側で設定します。

ウイルス対策ソフトの設定

LANSCOPE Client のインストールフォルダーは、ウイルス対策ソフトのリアルタイムスキャンの対象から除外してください。

CPMS を導入の場合、LANSCOPE サイバープロテクション powered by CylancePROTECT の管理コンソールで次のフォルダーを除外登録してください。

- C:¥Program Files (x86)¥MOTEX
- C:¥Windows¥TEMPLSPANCLIENT
- C:¥Windows¥TEMP¥TEMPLSP
- C:¥Windows¥TEMP¥TEMPLSPANCLIENT
- C:¥Windows¥TEMPLSPCL
- %userprofile%¥AppData¥Local¥Temp¥TEMPLSP

「%userprofile%」は、ワイルドカードでも登録できます。

BitLocker の設定

リモートワイプを利用するためには、事前に BitLocker の設定が必要です。

機種や OS バージョンにより、画面や手順が異なる場合があります。

注意

- TPM が搭載されていないデバイスの場合は、BitLocker 機能が搭載されていてもリモートワイプはできません。
- PIN コードや USB キーなどの暗号化の解除設定をしている場合、リモートワイプはできません。
- リモートワイプができないデバイスは、BitLocker を有効にしても「BitLocker 回復キー」を取得できない場合があります。

1. [コントロールパネル] > [BitLocker ドライブ暗号化] をクリックします。
2. 左下メニューに [TPM の管理] が表示されていることを確認し、[BitLocker を有効にする] をクリックします。



3. 回復キーのバックアップ方法を選択し、[次へ] をクリックします。
リモートワイプを実行したデバイスを復旧させるために必要です。任意のバックアップ方法を選択してください。
4. ドライブ暗号化する範囲を選択し、[次へ] をクリックします。
[ドライブ全体を暗号化する] を選択すると、安全性が高まります。ただし、暗号化に時間がかかることがあります。
5. 使用する暗号化モードの選択を求められた場合は、任意の暗号化モードを選択し、[次へ] をクリックします。
6. BitLocker システムチェックを実行するかどうかを選択し、[続行] をクリックします。
[BitLocker システムチェックを実行する] をチェックすると、安全性が高まります。ただし、デバイスの再起動が必要です。
→暗号化が開始します。完了ダイアログが表示されたら、[閉じる] をクリックします。
7. 選択したドライブに「BitLocker が有効です」と表示されていることを確認します。

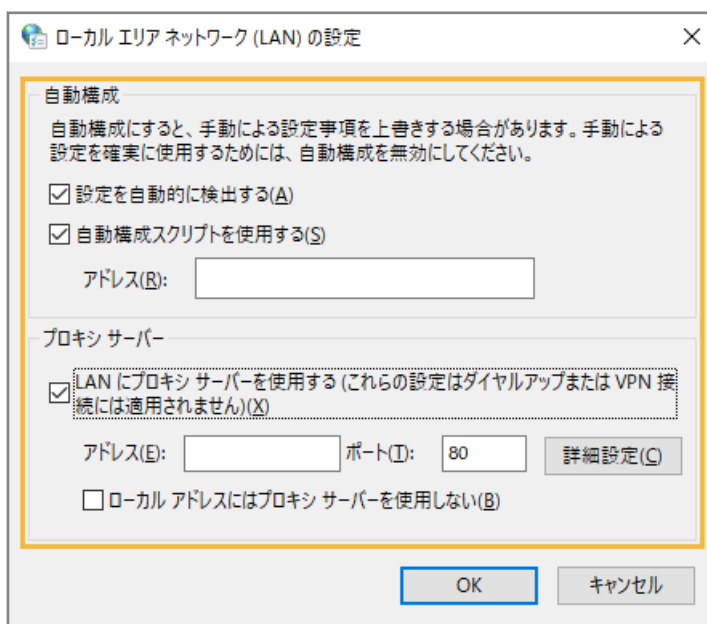


プロキシサーバーの設定

プロキシサーバーを経由する場合、事前にプロキシサーバーの設定が必要です。すでに設定している場合も、次に示すところに設定されているかを必ず確認してください。

1. [コントロールパネル] > [インターネットオプション] をクリックします。
2. [接続] タブの [LAN の設定] をクリックします。
3. 利用しているプロキシ環境に応じて設定し、[OK] をクリックします。

プロトコルごとに設定が必要な場合は、[詳細設定] をクリックし、設定します。なお、エンドポイントマネージャー Free では「Secure」プロトコルを使用します。



Active Directory のグループポリシー設定

Windows アップデートのインストール時、デバイスが Microsoft アップデートサーバーにアクセスできるようにする必要があります。

インストール設定をする場合、Active Directory のグループポリシー「インターネット上の Windows Update に接続しない」を「無効」に設定してください。「有効」に設定していると、Microsoft アップデートサーバーにアクセスできず、インストールできません。

3-2 グループを設定する

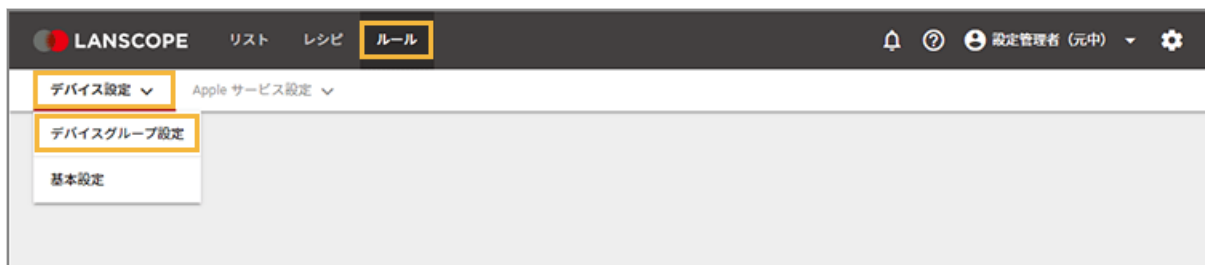
事前にグループ設定をしておくことで、設定したグループの配下に LANSCOPE クライアントをインストールしたデバイスが配置されます。

グループは5階層まで作成できます。

設定方法は次のとおりです。

■ グループを手動で設定する

1. [ルール] の [デバイス設定] > [デバイスグループ設定] をクリックします。



2. 設定するデバイスグループの上位階層のデバイスグループをクリックし、[追加] をクリックします。



→ 選択した階層の下に「新しいデバイスグループ」が追加されます。

3. 「新しいデバイスグループ」をダブルクリックし、「デバイスグループ名」と「グループコード」を入力します。

注意

- グループコードには、一意の値を入力してください。
- 入力できる文字の種類に制限はありません（英字／数字／漢字／ひらがな／カタカナ可）。
- 入力できる文字数は、100文字以内です。



4. [保存] をクリックします。

■ グループを一括で設定する

1. [ルール] の [デバイス設定] > [デバイスグループ設定] をクリックします。



2.  をクリックし、[エクスポート] をクリックします。



→ CSV ファイルがエクスポートされます。

3. エクスポートしたファイルを編集し、インポートファイルを作成します。

- 「グループ名」「グループコード」「上位グループコード」を入力します。
- 「上位グループコード」が未記入の場合、1 階層目に設定されます。

注意

- グループコードには、一意の値を入力してください。
- 入力できる文字の種類に制限はありません（英字／数字／漢字／ひらがな／カタカナ可）。
- 入力できる文字数は、100 文字以内です。

4.  をクリックし、[インポート] をクリックします。



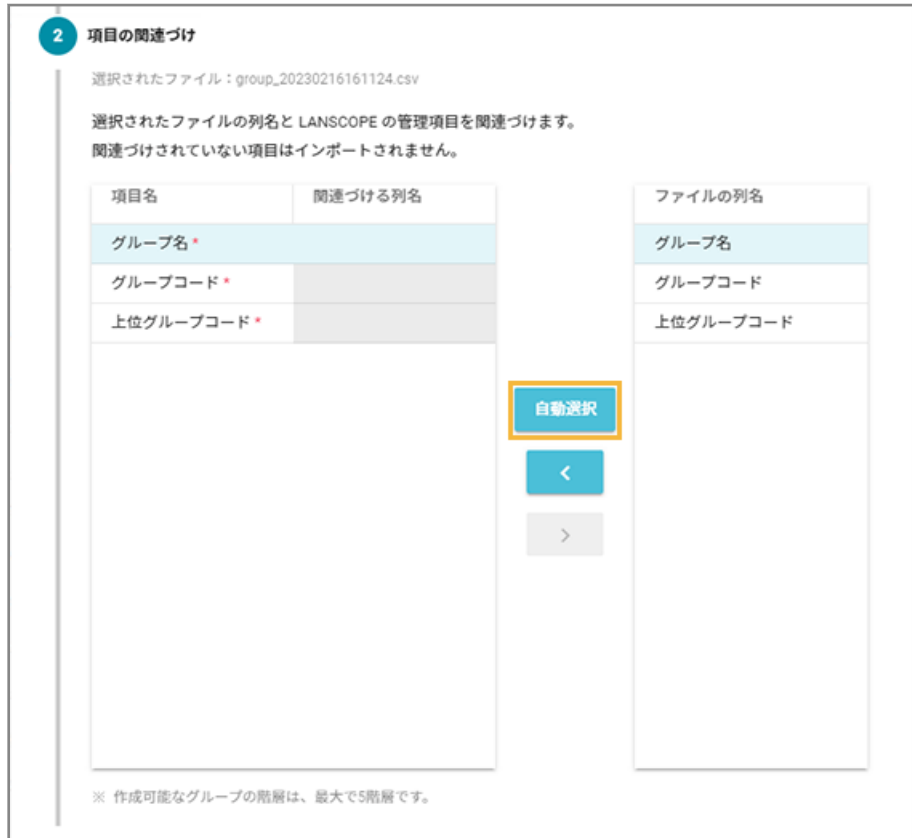
5. 管理コンソールに記載の手順に従って、インポートします。

(1) [ファイルを選択] をクリックし、作成したインポートファイルを選択します。

ファイルの内容が正しく読み込まれない場合は、エンコードを確認します。



(2) [自動選択] をクリックします。



→ 「関連づける列名」が自動的に選択されます。

「項目名」と「ファイルの列名」の項目が一致していないと自動的に選択されません。その場合は、対応する項目を1つずつ紐づけます。

(3) インポートファイルに記載されていないグループを管理コンソールから削除する場合は、チェックします。



(4) 【インポート】をクリックします。

→ インポートが完了します。

6. 内容を確認し、【保存】をクリックします。

デバイスグループ設定

保存

追加 削除

🔄 ⋮

▼ ネットワーク全体

- 総務課 [SOUMUKA]
- 人事課 [JINJIKA]
- ▶ 営業部 [EIGYOUBU]
- ▶ システム部 [SYSTEMBU]
- ▶ サポートセンター [SUPPORTCENTER]
- ▶ 運輸部 [UNYUBU]
- 検証用 [KENSHO]

3-3 管理対象デバイスの情報を登録する

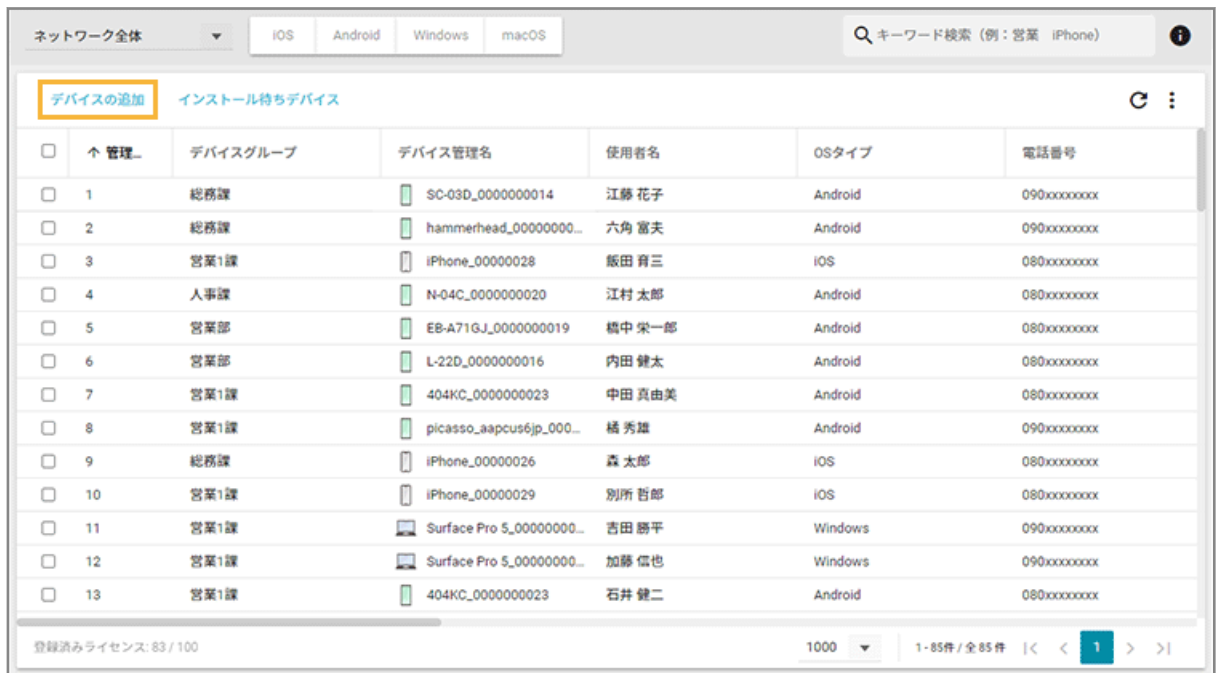
デバイスを紐づけるための情報を登録します。

■ デバイス情報を1台ずつ追加する

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2. [デバイスの追加] をクリックします。



3. [カスタムインストール] をクリックします。



4. デバイスの情報とインストーラーの設定を入力し、[追加] をクリックします。

| 項目 | 値 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| OS タイプ | 対象デバイスの OS |
| デバイスグループ | 所属するデバイスグループ 事前に設定しておいたグループを指定します。 |
| デバイス管理名 | デバイスを特定できる任意のデバイス管理名 |
| 使用者名 | デバイスを特定できる任意の使用者名 |
| 送信先メールアドレス | デバイスのメールアドレス 管理コンソールからインストールの手順と URL をデバイスにメール通知するときに必要です。 |
| インストーラーの設定 | 任意に設定 Administrator 権限のないデバイスに実行権限を設定したり、インストール結果を通知したり、インストール完了時に再起動したりできます。 |

管理対象デバイスの情報追加

一台ずつ追加 一括インポート追加

カスタムインストール手順は以下をご確認ください。

[i](#) iOS [i](#) Android [i](#) Windows [i](#) macOS

デバイス情報を追加します。

OSタイプ
 iOS Android Windows macOS

デバイスグループ
ネットワーク全体 ▼

デバイス管理名*
MO 太郎

使用者名

使用者の社員コード

デバイスタイプ
デスクトップ ▼

送信先メールアドレス ?

▼ 詳細項目を表示する

インストーラーの設定

以下の場合は「実行権限や通知を設定する」を有効にしてください。

- Administrator 権限のないデバイスへインストールする場合
(インストールには Administrator 権限が必要です)
- インストール結果や完了・失敗時にデバイスへ通知を行う場合

実行権限や通知を設定する

キャンセル **追加**

→ 「登録が完了しました。」と表示されたら、デバイスの追加が完了します。



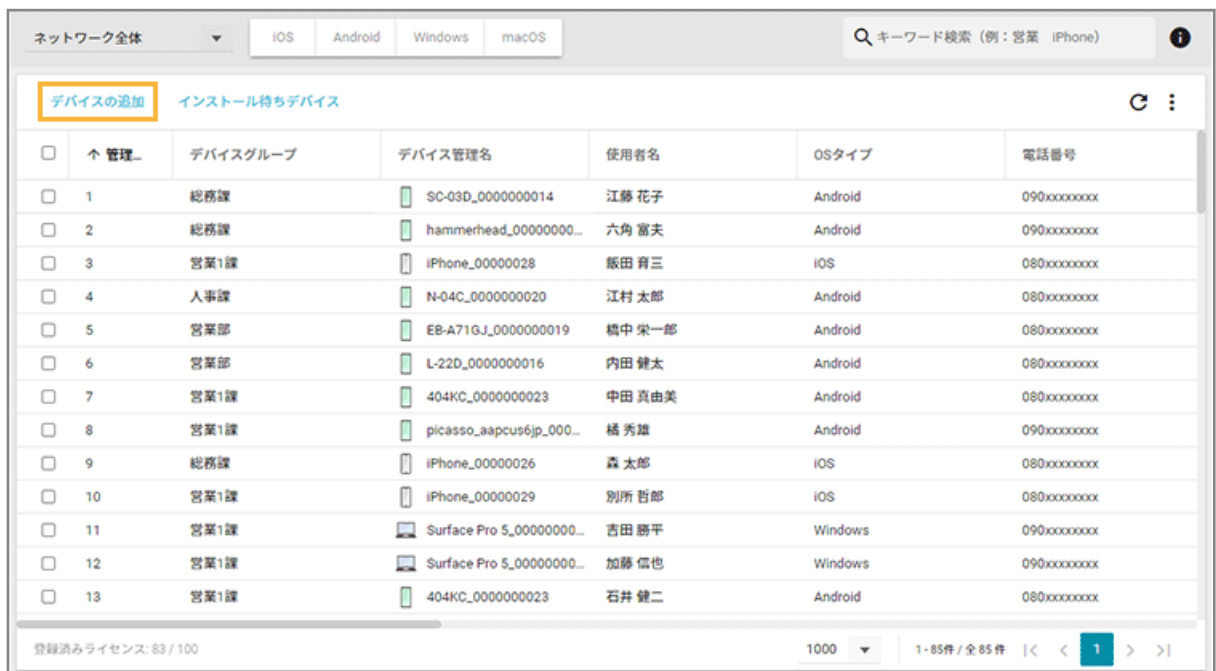
続けて追加する場合は、[続けて登録] をクリックします。[インストール待ちデバイス一覧] をクリックすると、追加したデバイスの情報を確認できます。

■ デバイス情報を一括で追加する

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2. [デバイスの追加] をクリックします。



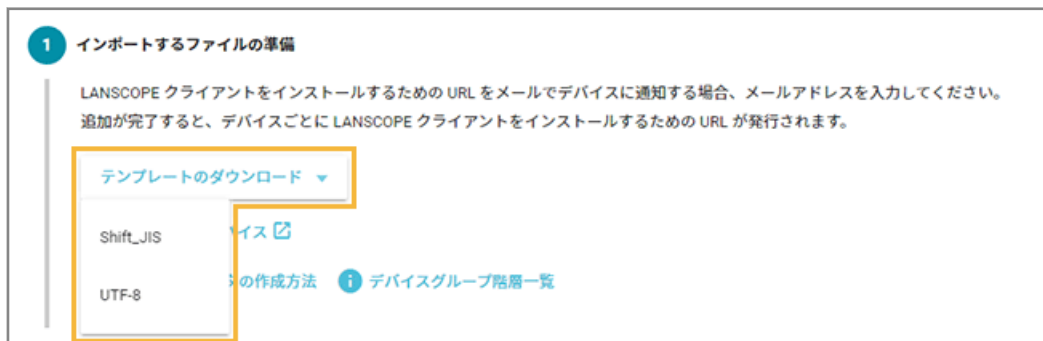
3. [カスタムインストール] をクリックします。



4. [一括インポート追加] をクリックします。



5. インポートデータ (CSV ファイル) を作成します。



(1) [テンプレートのダウンロード] をクリックし、[Shift-JIS] または [UTF-8] をクリックします。

→ 選択したエンコードでインポートデータのひな型がダウンロードされます。

(2) CSV ファイルを編集します。

| 項目 | 値 |
|----------------|---------------------------------------------------------------|
| OS タイプ | 対象デバイスの OS |
| デバイス管理名 | デバイスを特定できる任意のデバイス管理名 |
| 送信先メールアドレス | デバイスのメールアドレス 管理コンソールからインストールの手順と URL をデバイスにメール通知するときが必要です。 |
| デバイスグループ階層 1~5 | 所属するデバイスグループ 事前に設定しておいたグループを指定します。 |
| 使用者名 | デバイスを特定できる任意の使用者名 |

詳細は、[インポートデータの作成方法] をクリックしてください。

6. [ファイルを選択] をクリックし、作成したインポートファイルを選択します。

ファイルの内容が正しく読み込まれない場合は、エンコードを確認します。



7. [自動選択] をクリックします。



→ 「関連づける列名」が自動的に選択されます。

「項目名」と「ファイルの列名」の項目が一致していないと自動的に選択されません。その場合は、対応する項目を1つずつ紐づけます。

8. プレビューを確認します。

| プレビュー | | | |
|---------|----------------------|---------|----|
| OSタイプ | デバイス管理名 | デバイスタイプ | 送信 |
| IOS | iPhone_00000035 | MOBILE | |
| ANDROID | 404KC_0000000025 | MOBILE | |
| WINDOWS | Surface 3_0000000055 | LAPTOP | |
| MAC | MacBook_00000058 | DESKTOP | |
| IOS | iPhone_00000037 | MOBILE | |

9. インストーラーの設定をし、[インポート] をクリックします。

4 Windows 版 LANSCOPE Client のインストーラーの設定をする

この設定は Windows デバイスにのみ有効です。

以下の場合には [実行権限や通知を設定する] を有効にしてください。

- Administrator 権限のないデバイスへインストールする場合
(インストールには Administrator 権限が必要です)
- インストール結果や完了・失敗時にデバイスへ通知を行う場合

実行権限や通知を設定する

実行権限

インストールする実行ユーザーを設定する

ユーザー名*

administrator

ドメイン環境の場合は「ドメイン名¥ユーザー名」の形で入力してください。

パスワード

.....

通知

インストール結果をデバイスへ通知する

インストール完了時に再起動を通知する

強制的に再起動する

再起動を確認する

インストール失敗をデバイスへ通知する

失敗時の通知メッセージ*

インストールに失敗した場合は管理者にお問い合わせください。

.....

[過去に入力された通知設定から引用](#)

インポート

→ 「インポートが完了しました。」と表示されたら、デバイスの追加が完了します。

管理対象デバイスの情報追加

一台ずつ追加 一括インポート追加

デバイスの情報を一括インポート追加した後の流れは以下をご確認ください。

[i](#) iOS [i](#) Android [i](#) Windows [i](#) macOS

インポートが完了しました。

インポート件数: **1**件

※ データが反映されるまでに少しお時間がかかる場合があります。

[インストール待ちデバイス一覧](#)

[インポートに戻る](#)

[インストール待ちデバイス一覧] をクリックすると、追加したデバイスの情報を確認できます。

3-4 インストール手順と URL を確認する

必須

LANSCOPE クライアントのインストール手順と、インストールに必要な URL/登録キーを確認します。

ステップ:

1. [インストール手順と URL を確認する](#)
2. [メールで通知する](#)

ステップ 1: インストール手順と URL を確認する

1. [リスト] の [デバイス] をクリックします。



2. [インストール待ちデバイス] をクリックします。

| 管理 | デバイスグループ | デバイス管理名 | ユーザー名 | OSタイプ | 電話番号 | |
|--------------------------|----------|---------|---------------------------|--------|---------|-------------|
| <input type="checkbox"/> | 1 | 総務課 | SC-03D_0000000014 | 江藤 花子 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 2 | 総務課 | hammerhead_00000000... | 六角 富夫 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 3 | 営業1課 | iPhone_0000000028 | 飯田 育三 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 4 | 人事課 | N-04C_0000000020 | 江村 太郎 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 5 | 営業部 | EB-A71GJ_0000000019 | 橋中 栄一郎 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 6 | 営業部 | L-22D_0000000016 | 内田 健太 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 7 | 営業1課 | 404KC_0000000023 | 中田 真由美 | Android | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 8 | 営業1課 | picasso_aapcu56jp_000... | 橘 秀雄 | Android | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 9 | 総務課 | iPhone_0000000026 | 森 太郎 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 10 | 営業1課 | iPhone_0000000029 | 別所 哲郎 | iOS | 080xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 11 | 営業1課 | Surface Pro 5_00000000... | 吉田 勝平 | Windows | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 12 | 営業1課 | Surface Pro 5_00000000... | 加藤 信也 | Windows | 090xxxxxxxx |
| <input type="checkbox"/> | 13 | 営業1課 | 404KC_0000000023 | 石井 健二 | Android | 080xxxxxxxx |

→ 管理対象デバイスの情報を追加したあと、MDM 構成プロファイルがインストールされていないデバイスが表示されます。

3. 対象デバイスをクリックします。

インストール持ちデバイス

ネットワーク全体 ▼ iOS Android Windows macOS

キーワード検索 (例: 営業 iPhone) ⓘ

| <input type="checkbox"/> | 管理 | OSタイプ | デバイスグループ | デバイス管理名 | 送信先メールアドレス | 送信日時 |
|--------------------------|----|---------|----------|----------------------|------------------------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> | 59 | Windows | ネットワーク全体 | Surface 3_0000000054 | info@nec.com | |
| <input type="checkbox"/> | 60 | iOS | ネットワーク全体 | iPhone_00000034 | info@nec.com | |
| <input type="checkbox"/> | 61 | Android | ネットワーク全体 | F11_000000009 | info@nec.com | |
| <input type="checkbox"/> | 62 | macOS | ネットワーク全体 | MacBook_00000060 | info@nec.com | |

20 ▼ 1-4件 / 全4件 |< < 1 > >|

4. 手順、設定ファイル/インストーラーのダウンロード URL、登録キーを確認します。

対象デバイスに応じて、内容が切り替わります。

The screenshot shows a web interface for device management. The title bar reads "Windows Surface 3_0000000054 - デバイス詳細" with a management number "59" on the right. The left sidebar contains navigation options: "インストール", "管理情報", and "デバイスグループ". The main content area is titled "インストール" and includes a "編集" button. It displays the "送信先メールアドレス" (recipient email address) and a button "インストール手順を送信する". Below this, a section titled "ネットワーク接続時にプロキシサーバーを経由する場合" (When using a proxy server during network connection) contains three numbered steps:

- 1 設定ファイルをダウンロードする** (Download the configuration file):
 - Instruction: "インストールするために必要な設定ファイルをダウンロードします。ファイル名は必ず「Install.conf」で保存してください。"
 - Section: "URL からダウンロード"
 - URL: <https://example.com/...> (highlighted in orange)
 - 有効期限: 2023/06/22 12:07:47
 - Buttons: "URLをコピー", "直接ダウンロード", "ダウンロード"
- 2 LANSCOPE Client のインストーラーをダウンロードする** (Download the LANSCOPE Client installer):
 - Warning: "LANSCOPE Client のインストーラーは、手順 1 でダウンロードした設定ファイルと同じ場所に保存してください。"
 - Section: "URL からダウンロード"
 - URL: <https://example.com/...> (highlighted in orange)
 - 有効期限: 2023/06/22 12:07:47
 - Buttons: "URLをコピー", "直接ダウンロード", "ダウンロード"
- 3 LANSCOPE Client のインストーラーを起動し、インストールする** (Start and install the LANSCOPE Client installer):
 - Instruction: "ダウンロードしたインストーラーを実行し、画面上の指示に従ってインストールを完了させてください。登録キーの入力を求める画面が表示されたら、以下のキーを入力してください。"
 - Image: (highlighted in orange)

At the bottom, a "登録完了" (Registration complete) section states: "インストールが完了すると LANSCOPE でデバイスを管理できるようになります。" and "※ インストール完了後、反映まで時間がかかる場合があります。" with a link "デバイス一覧". Navigation arrows are visible at the bottom of the page.

◀ ▶ をクリックすると、前後のデバイス情報に切り替わります。

ステップ 2： メールで通知する

各デバイスにインストール手順と、インストールに必要な URL をメールで通知します。

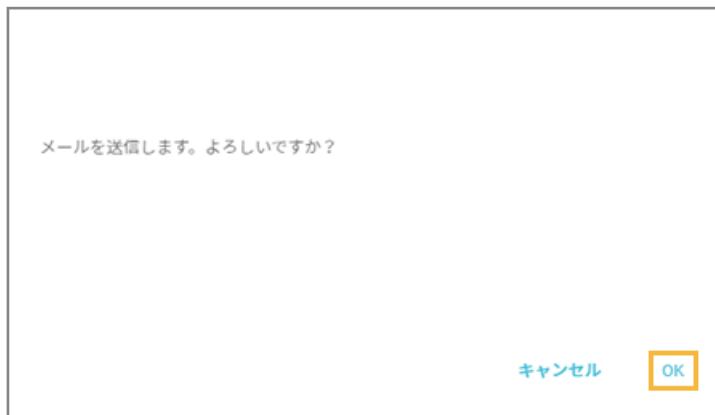
1 台ずつ通知する

1. [インストール手順を送信する] をクリックします。



→ 確認ダイアログが表示されます。

2. [OK] をクリックします。



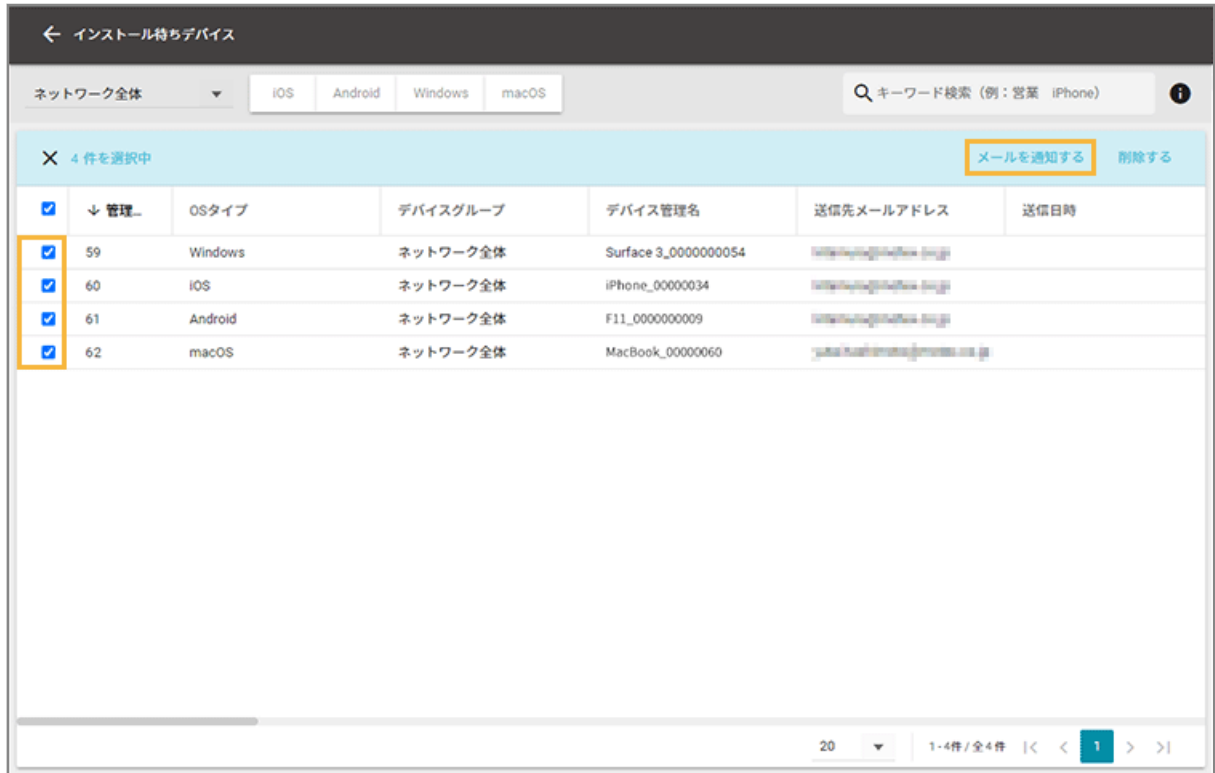
一括で通知する

複数デバイスに一括でメールを通知します。

1. 「デバイス詳細」画面を閉じます。

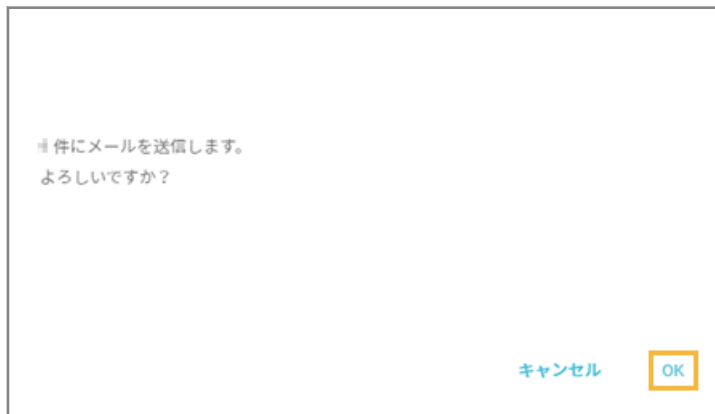
→ 「インストール待ちデバイス」画面に戻ります。

2. デバイスをチェックし、[メールを通知する] をクリックします。



→ 確認ダイアログが表示されます。

3. [OK] をクリックします。



3-5 デバイスに LANSCOPE クライアントをインストールする

必須

デバイスごとに LANSCOPE クライアントをインストールします。なお、管理者権限でサインインした状態で、LANSCOPE Client をインストールしてください。

注意

- カスタムインストールは、デバイスごとに専用の登録キーを利用します。そのため、一度インストールした登録キーを利用して、再度インストールできません。
- LANSCOPE Client をインストールする前に、「インストール待ちデバイス」画面からデバイス情報を削除した場合、削除したデバイス情報の登録キーは利用できません。

機種や OS バージョンにより、画面や手順が異なる場合があります。

1. **ダウンロード URL にアクセスし、LANSCOPE Client の設定ファイル/インストーラーをダウンロードして、同じフォルダーに保存します。**

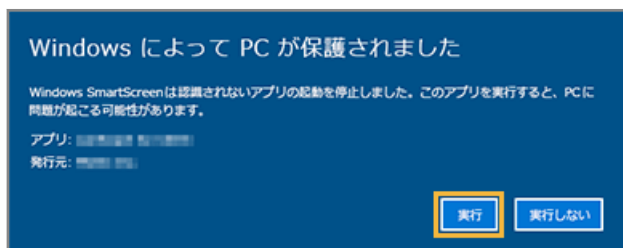
注意

設定ファイルとインストーラーが同じフォルダーに保存されていることを確認してください。同じフォルダーにない場合、LANSCOPE Client のインストールに失敗します。

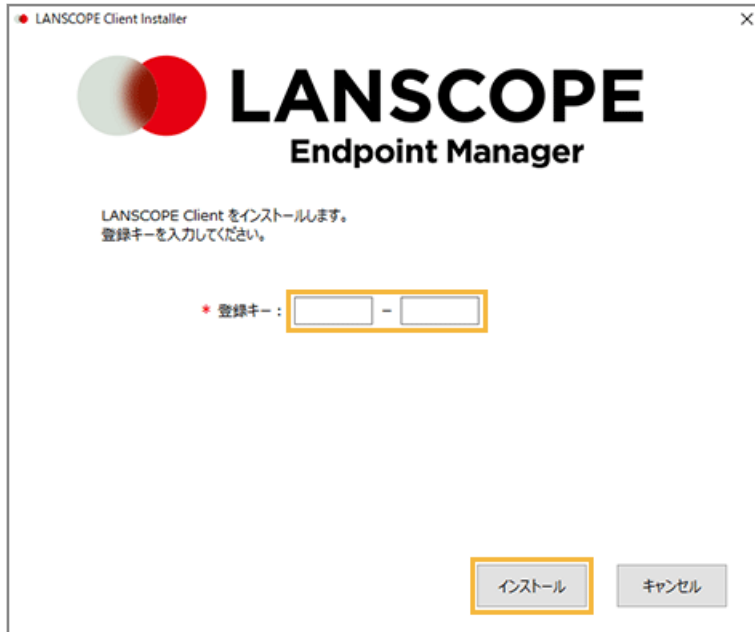
2. **インストーラーを実行します。**

→ Windows SmartScreen の画面が表示された場合は、[詳細情報] をクリックします。

3. **[実行] をクリックします。**



4. **登録キーを入力し、[インストール] をクリックします。**



→ LANSCOPE Client のインストールが開始されます。

5. プロキシサーバーを経由してネットワークに接続する場合、必要に応じて内容を入力し、[次へ] をクリックします。

ポイント

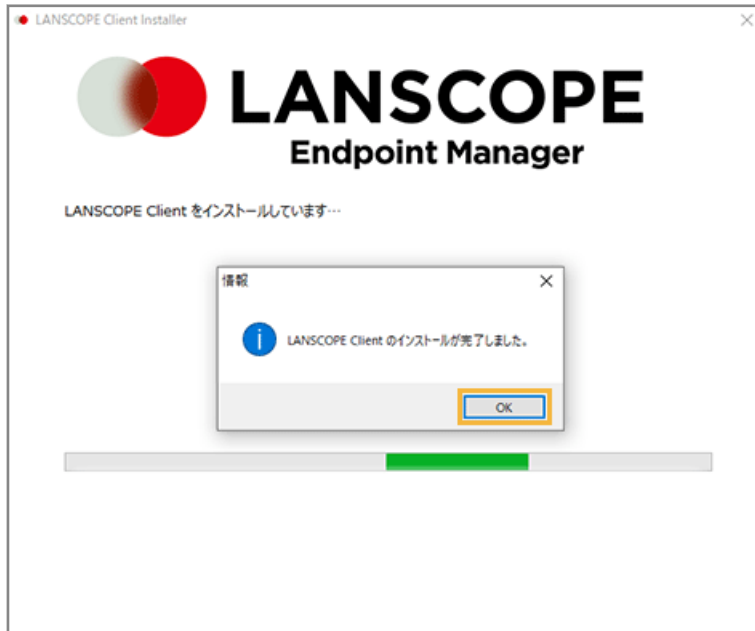
プロキシ設定が有効な場合にだけ表示されます。



6. インストール完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

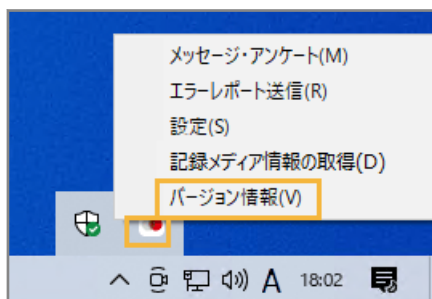
ポイント

インストーラーの設定で、通知をオフにしている場合は表示されません。



→ LANSCOPE Client のインストールが完了します。

7. タスクバーの通知領域の LANSCOPE Client を右クリックし、[バージョン情報] をクリックします。



8. バージョン情報に「会社名」「管理 No.」が表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。



ポイント

LANSCOPE Client の登録が完了すると、[リスト] > [デバイス] のデバイス一覧に表示されます。

こんなときは

- [プロキシサーバーの設定を変更する](#)

プロキシサーバーの設定を変更する手順について説明します。

- [LANSCOPE Client を更新する](#)

最新バージョンがある場合、タスクバーの通知領域にある LANSCOPE Client のアイコンにバッチが表示されます。デバイスを再起動し、LANSCOPE Client を最新バージョンに更新します。

- [機種変更などでデバイスが変更になった場合](#)

機種変更などでデバイスが変更となる場合の対応方法について説明します。

- [トラブルシューティング](#)

トラブル発生時の対応方法について説明します。

プロキシサーバーの設定を変更する

プロキシサーバーの設定を変更する手順について説明します。

プロキシサーバーを経由しない環境に切り替える

エンドポイントマネージャー Free 側で、設定を変更したり、LANSCOPE クライアントを再インストールしたりする必要はありません。利用しているネットワーク環境にあわせて、プロキシサーバーの経由設定を解除してください。

プロキシサーバーを経由する環境に切り替える／経由するプロキシサーバーの設定を変更する

LANSCOPE クライアントがインストールされている状態で、次の設定を行います。

1. [コントロールパネル] > [インターネットオプション] をクリックします。
2. [接続] タブの [LAN の設定] をクリックします。
3. 利用しているプロキシ環境に応じて設定し、[OK] をクリックします。

プロトコルごとに設定が必要な場合は、[詳細設定] をクリックし、設定します。なお、エンドポイントマネージャー Free では「Secure」プロトコルを使用します。

プロキシサーバー接続時にユーザー認証が必要な場合

1. タスクバーの通知領域の LANSCOPE Client を右クリックし、[設定] をクリックします。
2. [プロキシ設定] タブの [ユーザー認証を設定する] をチェックし、「ユーザー名」「パスワード」を入力または変更します。
3. [OK] をクリックします。

LANSCOPE Client を更新する

最新バージョンがある場合、タスクバーの通知領域にある LANSCOPE Client のアイコンにバッチが表示されます。デバイスを再起動し、LANSCOPE Client を最新バージョンに更新します。

機種変更などでデバイスが変更になった場合

機種変更などでデバイスが変更となる場合の対応方法について説明します。

ステップ：

1. [古いデバイスの情報を削除する](#)
2. [古いデバイスから LANSCOPE クライアントをアンインストールする](#)
3. [新しいデバイスを登録する](#)

ステップ 1： 古いデバイスの情報を削除する

ライセンスに余剰がない場合、古いデバイスの情報を削除し、ライセンスを確保します。余剰ライセンスがある場合は、デバイス情報を削除せずに新しいデバイスを登録できます。

デバイス情報の削除方法については、An-345「Free 利用ガイド」を参照してください。

ステップ 2： 古いデバイスから LANSCOPE クライアントをアンインストールする

アンインストール方法については、An-337「Free アンインストールガイド」を参照してください。

ステップ 3： 新しいデバイスを登録する

本ガイドを参照し、新しいデバイスに LANSCOPE クライアントをインストールして登録します。

トラブルシューティング

トラブル発生時の対応方法について説明します。

LANSCOPE Client インストール時のエラー

| エラーメッセージ | 補足 | 対応方法 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| LANSCOPE Client のインストールに失敗しました。 | Windows 10 未満の OS には対応しておりません。 | 対応 OS かどうかを確認してください。 |
| | OS のバージョンをご確認ください。 | |
| | LANSCOPE Free サーバーに接続できません。 | 通信環境が不安定になっている可能性があります。通信環境を確認してください。 |
| | ネットワークの状態を確認していただき、再度インストールを実行してください。 | |
| | LANSCOPE Free サーバーにデバイスを登録できませんでした。 | 残りライセンスが「0」になっていないか確認してください。 それでも解決しない場合、弊社までお問い合わせください。 |
| | 時間を置いてから、再度インストーラーを実行してください。 | |
| | デバイスヘクライアントアプリを登録できませんでした。 | 弊社までお問い合わせください。 |
| | 予期しないエラーが発生しました。 | 弊社までお問い合わせください。 |
| システム管理者の方へご確認ください。 | | |
| LANSCOPE Client のアンインストール後に Windows の再起動が行われていない可能性があります。Windows の再起動後にインストールを再度実行してください。 | デバイスを再起動してから再度インストールしてください。 | |
| 登録キーが正しくありません。 | 登録キーが正しいかどうかを確認し、再度インストールしてください。 | |
| 操作がタイムアウトになりました。 | 再度登録してください。 | |

| エラーメッセージ | 補足 | 対応方法 |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | インストーラーの構成が正しくありません。 | 設定ファイルをダウンロードし直し、インストーラーと同じフォルダーにコピーして、再度インストールしてください。 |
| モジュール AncientInstaller.exe のアドレス XXXXXXXX でアドレス YYYYYYYY に対する読み取り違反がおきました。 | OS 側の挙動に何らかの異常が生じており、それが原因となってデバイス識別用の情報取得、および登録処理が失敗している可能性があります。 | 弊社までお問い合わせください。 |
| LANSCOPE Free サーバーに接続できません。 ネットワークの状態を確認して頂き、再度インストールを実行してください。 | Web フィルタリングやウイルス対策ソフトなどで通信が阻害されている可能性があります。 | LANSCOPE Client で使用する URL/ポートの許可設定をしてください。 |
| このファイルは危険なファイルであるため、Chrome でブロックしました。 | Google Chrome での LANSCOPE Client のインストーラーダウンロードに失敗する場合があります。 | 別の Web ブラウザーからダウンロードしてください。 |
| プロキシサーバーへの接続で認証エラーが発生しました。 ユーザー認証に問題がないか確認してください。 | プロキシサーバーの認証に失敗している可能性があります。 | プロキシサーバーにアクセスするときに入力したユーザー情報/パスワードが有効かどうかを確認してください。 |
| — (プロキシ設定画面から進めずにインストールが完了しない場合) | プロキシサーバーの認証に失敗している可能性があります。 | プロキシサーバーにアクセスするときに入力したユーザー情報/パスワードが有効かどうかを確認してください。 |
| — (ライセンスが余分に消費されたためにインストール操作ができない場合) | サーバー側で一時的なエラーが発生している可能性があります。 | 弊社までお問い合わせください。 |
| — (タスクマネージャーのサービスやタスクバーに LANSCOPE Client が表示されていない場合) | インストール手順や、デバイスにインストールされているソフトウェアの影響が原因で、インストールに失敗している可能性があります。 | 次の内容を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定ファイルとインストーラーが同じフォルダーに保存されているか ● ウィルス対策ソフトや監視ソフトで無効化/許可設定されているか ● Administrator ユーザー、または実行権限があるユーザーでログオンしているか |

MOTEX

© MOTEX Inc.